



教室の一年の歩み

– 2025 –

江口 晋

2025年11月29日

長崎大学移植・消化器外科 同門会（鐘韻会）

本日の内容

- ・鐘韻会の現状
- ・移植・消化器外科2025年の実績
- ・長崎大学外科学講座 統合・再編について

長崎大学 移植・消化器外科学(第二外科) 教室構成員

同門会員数 366名 (女性：29名)
(本年ご逝去者2名)

関連施設数 30施設

現役教室員数 87名 (女性：13名)

- ・大学内 27名 (女性：4名)
- ・関連施設 56名
- ・国内外留学 4名

(2025年11月29日現在)

逝去者(2024. 12～2025. 11)

- ・ 北島 陽夫 先生（昭和37年卒）2025年 2月 1日 ご逝去 享年89歳
- ・ 持永 信夫 先生（昭和45年卒）2025年 6月 4日 ご逝去 享年79歳
- ・ 南 宣行 先生（昭和43年卒）2025年11月18日 ご逝去 享年82歳

2025年の長寿祝い

【米寿88歳（昭和13年生）】

西村柳介（昭和13年 3月17日）

邊見武彦（昭和13年12月13日）

原田 昇（昭和13年 1月27日）

【喜寿77歳（昭和23年生）】

池田良一（昭和23年11月30日）

大津哲雄（昭和23年11月23日）

茅野公一（昭和23年 6月 7日）

富岡 勉（昭和23年 7月 4日）

中野文耕（昭和23年 9月26日）

前田治伸（昭和23年 1月16日）

内田隆寿（昭和23年 7月30日）

加茂廣明（昭和23年 8月12日）

吉良満夫（昭和23年 1月 2日）

中郷俊五（昭和23年 7月17日）

前田潤平（昭和23年 1月12日）

山内和雄（昭和23年 1月 8日）

兼松隆之名誉教授 傘寿祝賀会 2025年2月1日



古屋野先生御就任100年記念誌発刊



たくさんの貴重なお写真と原稿をお寄せいただき、
ありがとうございました。

編集委員長：金高 賢悟

ご寄稿お願い致します

鐘韻フォトギャラリー



「ノシャッフルから藤七利行先生」

「ランタンと朝靄」

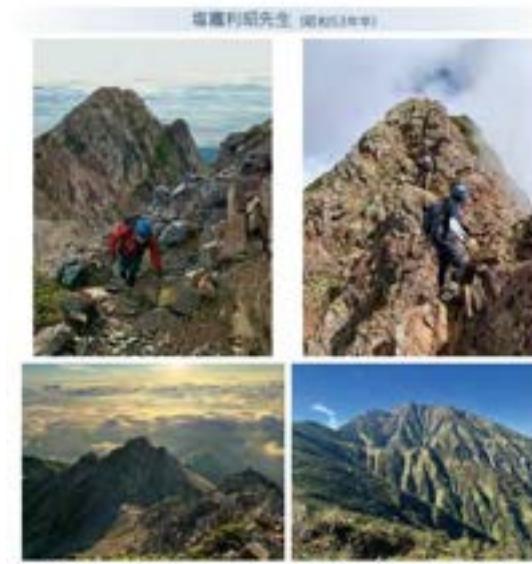
「高尾鉢行で作成したMy二外科お書き」



「紅梅一枝」



「娘とブランコ」



「林田沙也香 (平成9年卒)」

「長谷川英子 (平成9年卒)」



「sky love」



「野佐崎のゴルフ場で遊ぶするキツネ」

「日高国章先生 (平成11年卒)」



「福佐の浜からの夕日 2025年3月」

「藤田文彦先生 (平成7年卒)」



「我々の久留米大学外科医局にある
キッズスペースです」

「高根光寿先生 (平成6年卒)」



「移動しました。数授室からの風景」

「黒木 保先生 (平成4年卒)」

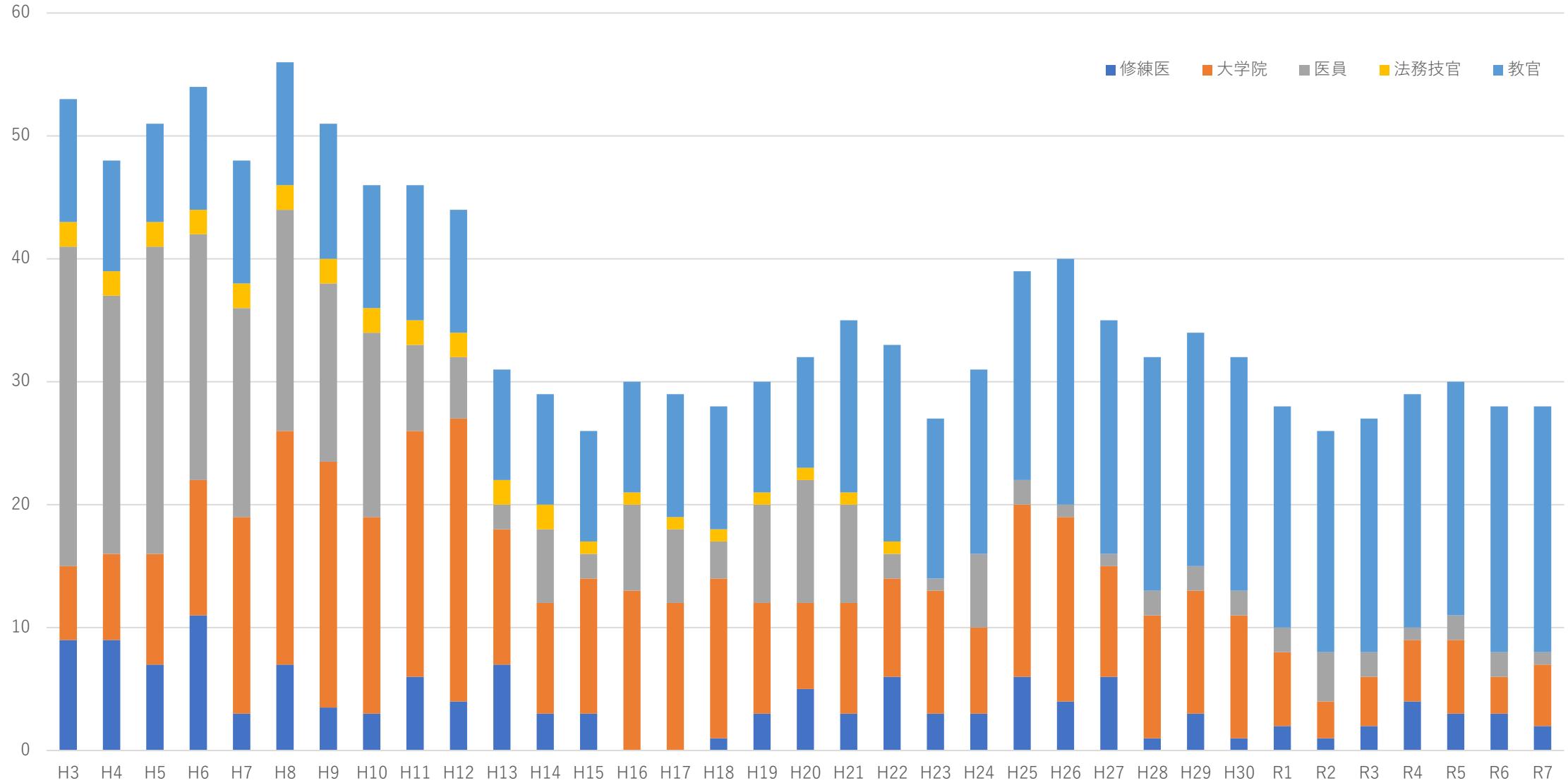


「ひなたぼっこ」

教室の構成と現況

2025

大学勤務医師数



教員人事

採用・昇任

金高 賢悟 (平成6年卒)

長崎大学病院 再生医療・外科診療センター 教授
(2025年4月1日付)

山口 峻 (平成25年卒)

長崎大学病院 助教 (2025年4月1日付)

右田 一成 (平成29年卒)

長崎大学病院 助手 (2025年4月1日付)

転出

原 貴信 (平成19年卒) 助教 長崎医療センター

(2025年3月31日付)

三好 敬之 (平成24年卒) 助教 長崎みなとメディカルセンター (2025年3月31日付)

2025年 外科ハブセンター 新入局員

中尾 彩乃 (長崎県対馬病院)

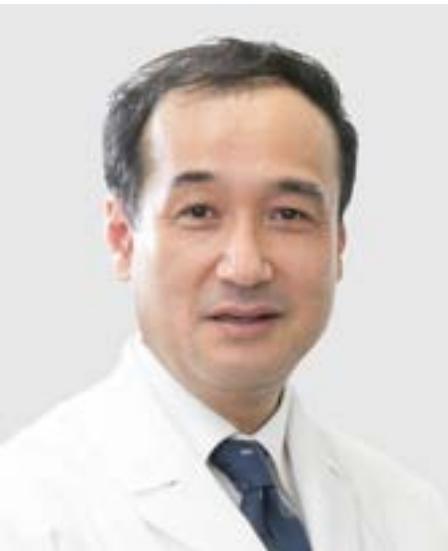
平戸 優樹 (長崎県対馬病院)

宇津木 聖章 (長崎大学病院)

古川 雅大 (長崎大学病院)

織田 朱音 (佐世保市総合医療センター)

教授



江口 晋 H4

移植・消化器外科学

学会理事 日本消化器外科学会
日本消化器病学会(副理事長)
日本肝胆脾外科学会(副理事長)
日本移植学会(副理事長)
日本再生医療学会
日本脾・膵島移植学会
日本Acute Care Surgery学会
国際外科学会 日本部会
アメリカ外科学会 日本支部
九州消化器癌化学療法研究会 (KSCC)



永田 康浩 S61

医学部地域医療学講座

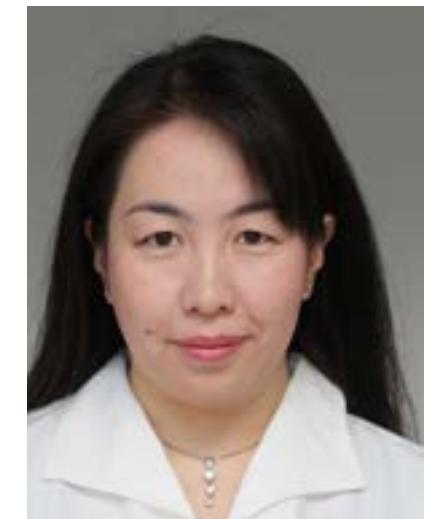
全国地域医療教育協議会 副代表



金高 賢悟 H6

再生医療・外科診療センター

日本内視鏡外科学会ロボット支援手術
認定プロクター(食道)
日本内視鏡外科学会評議員
日本食道学会選挙評議員
日本肥満症治療学会評議員
日本消化器病学会九州支部評議員
九州外科学会評議員
日本消化器病学会再生医療推進委員



林田 直美 H10

原研センター共同研究推進部

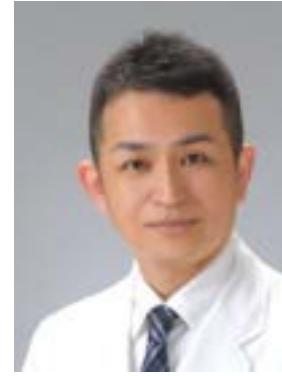
准教授



小林和真 H6
(化学療法G)



曾山 明彦 H12
先端技術展開
外科学講座



足立智彦 H12
(肝胆脾G)

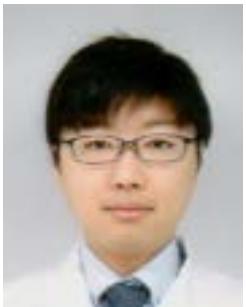
講師



久芳さやか H13 小坂太一郎 H14 井上悠介 H16
(乳腺・内分泌G) (小兒G) (下部G)



助 教



小林慎一朗H18
(上部G)



木下綾華H18
(肝胆脾G)



松島 肇H19
(肝胆脾G)
医局長



今村一步H21
(肝胆脾G)
副医局長



赤司 桃子 H22
(乳腺・内分泌G)



足立 利幸 H23
(下部G)



濱田隆志H23
(肝胆脾G)



松隈国仁H23
(化学療法G)



藤田拓郎 H24
(小児G)
助手



村上 俊介 H25
(上部G)



山口 峻 H25
(下部G)



右田一成H29
(肝胆脾G)
助手



宮本大輔 (PhD) 長谷川佳代(PhD)



猪熊孝実 H13
救命・救急センター

大学院生

医員

4年生



藤田 拓郎 H24

吉野恭平 H27

円城寺貴浩 H25

哲翁 華子 H28

右田 一成 H29

川口 雄太 H29

栗寄 健 H29

李 陸洋

3年生



佐藤 彩香 H30

Askeyev Baglan

2年生



笠 伸大郎 H29

李 天洋

1年生



中村 瞬 H30

久保飛翔 H31

小川伸一郎 R2

黒滝航希 R2

中山嵩士 R2

布下裕基 R2

亀浜 郁佳 R2

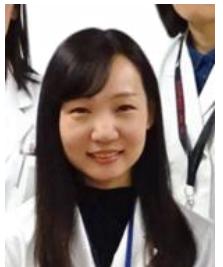
AKHMET DIYAR

ZHANG BOLIN

修練医



ラボさん



有山さん
教授秘書



原口さん
乳腺班
業務サポート



濱口さん
AMED(足立班)
胆膵データ入力



柴田さん
医局長秘書



林田さん
受付



森さん
医師事務
作業補助



永瀬さん
先端技術展開
外科学講座事務



森山さん
実験室



小寺さん
厚労科研(江口班)

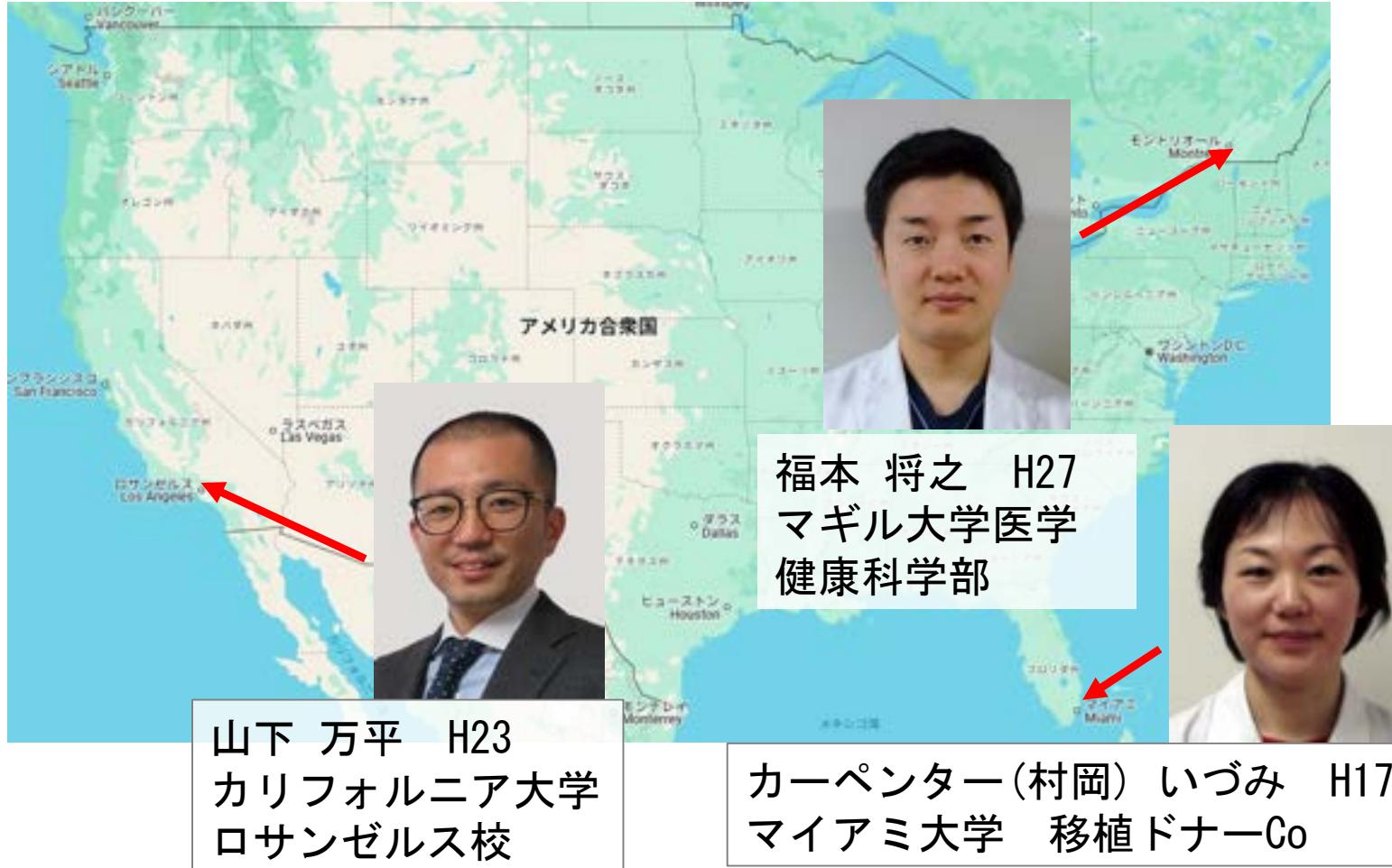


大平さん
AMED(江口班)



増田さん
AMED(江口班)

海外留学生



国内留学/派遣者



大学外科教室のミッション

1. 人材育成

臨床医・専門医・地域医療・教育者・社会/国際医療

2. 情報発信

臨床・研究・社会/国際貢献

教室の実績 2025

- 臨床
- 教育
- 研究
- 社会活動・国際貢献
- その他

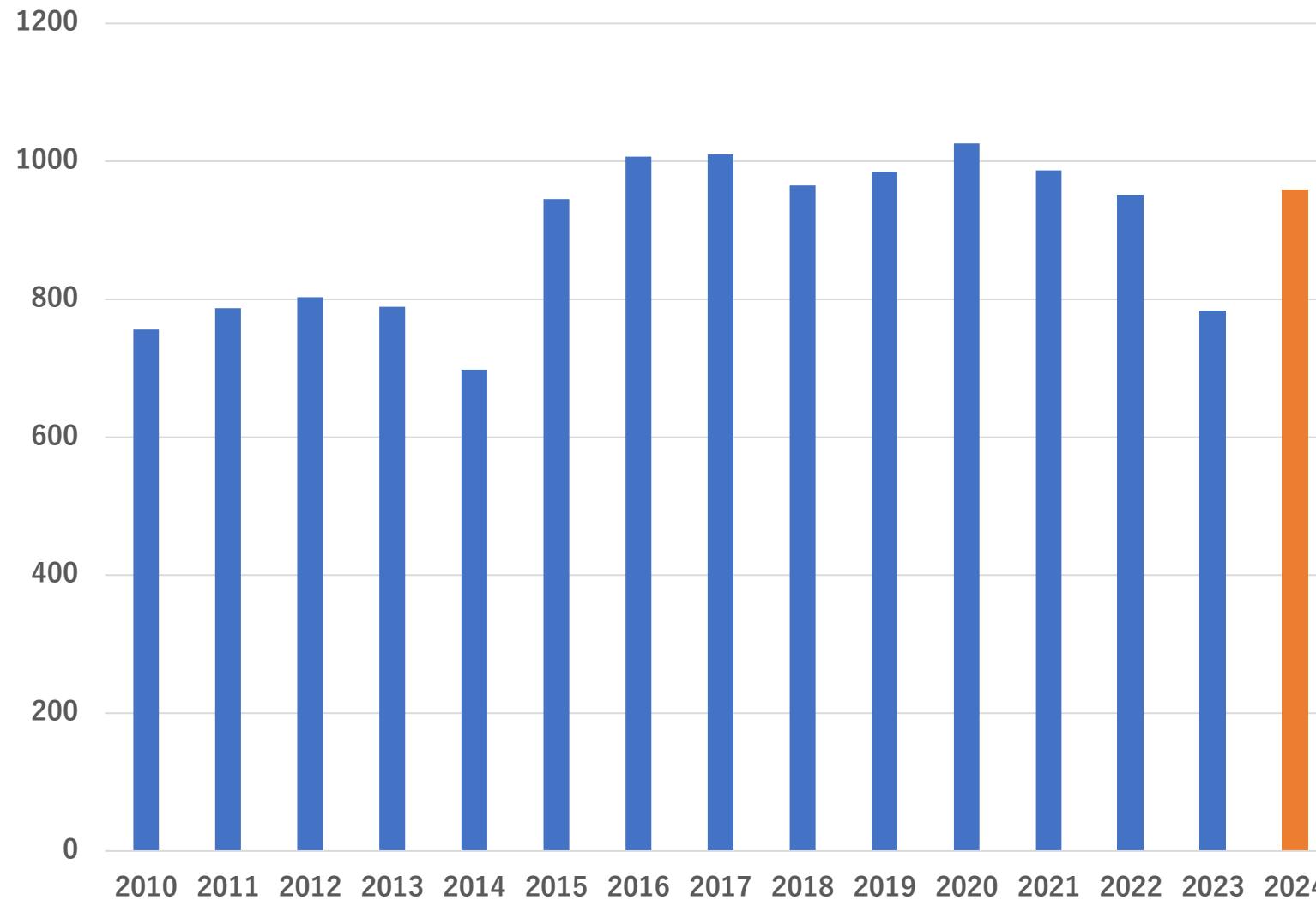
教室の実績 2025

- 臨床
- 教育
- 研究
- 社会活動・国際貢献
- その他

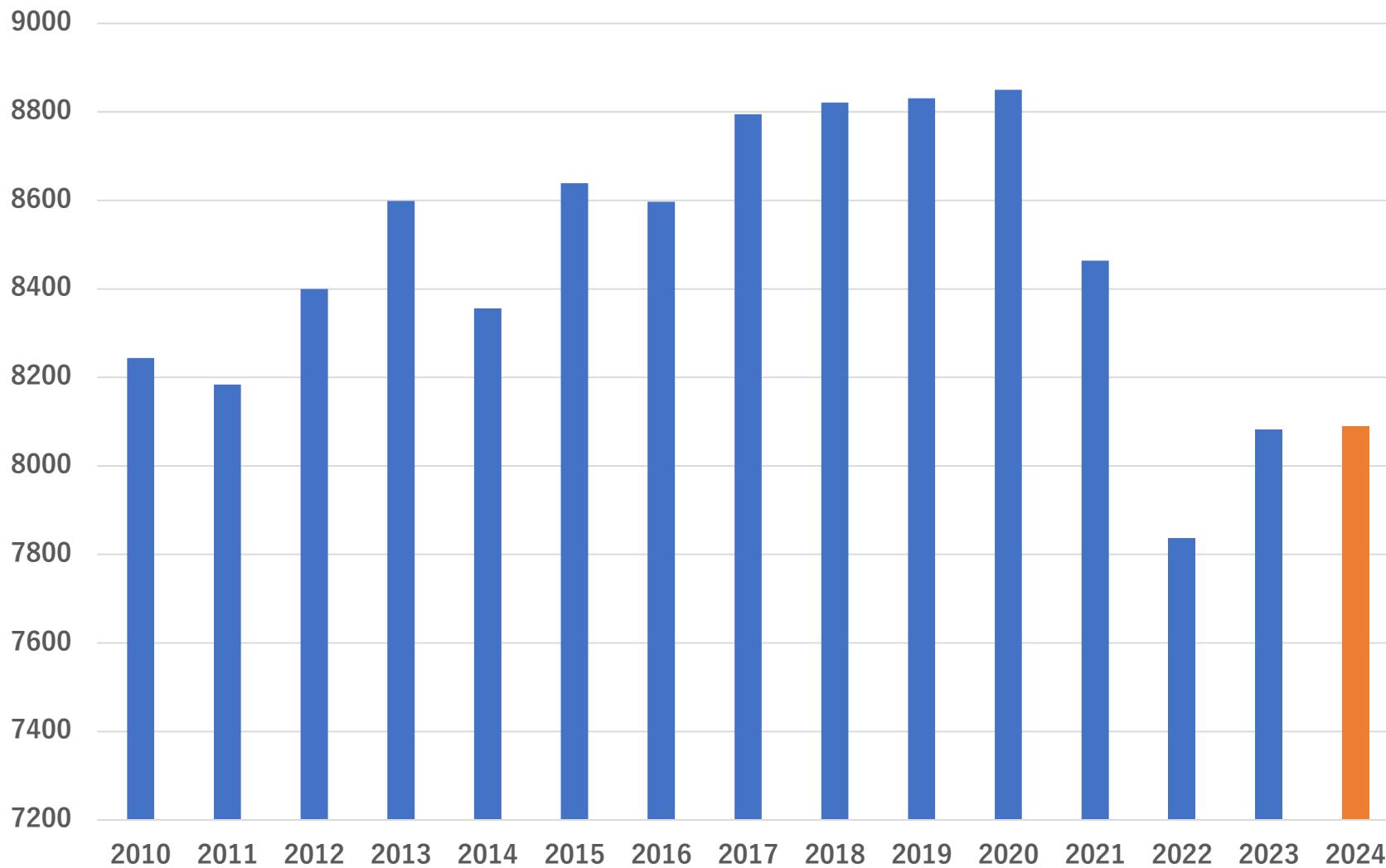
手術時の心得

安全性 > 根治性 > 新規性

当科手術総数 (長崎大学病院)

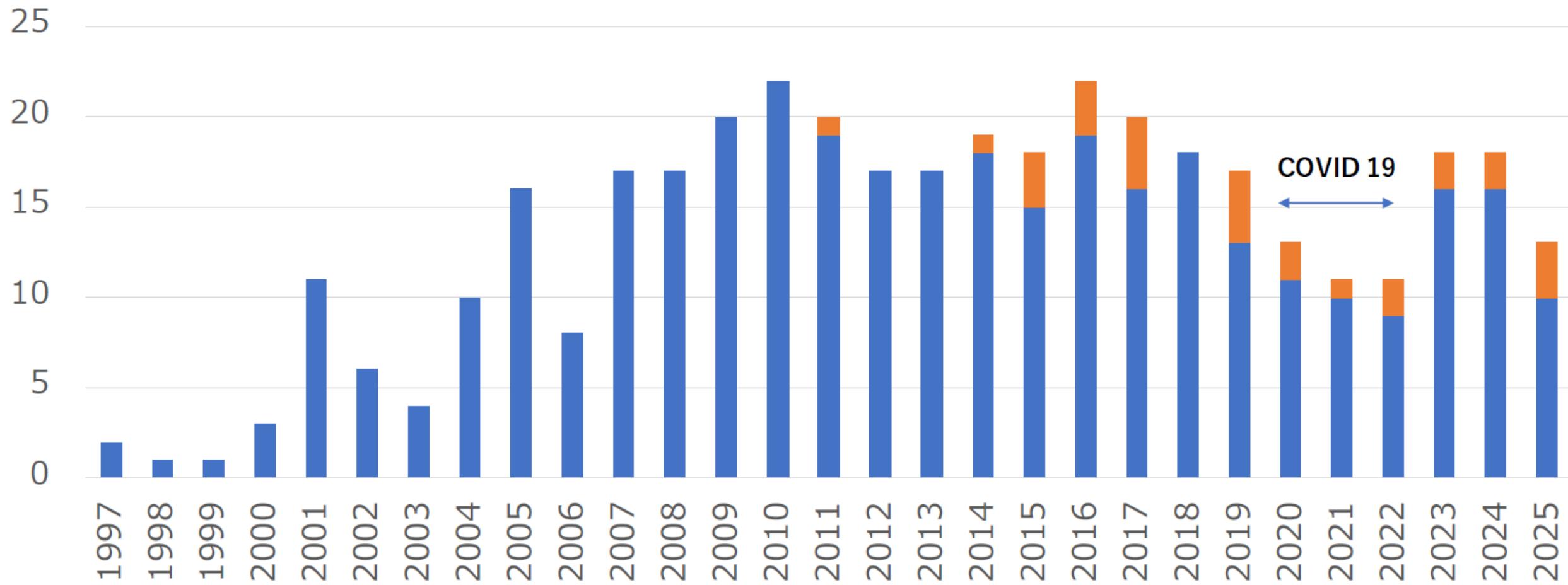


関連病院手術総数

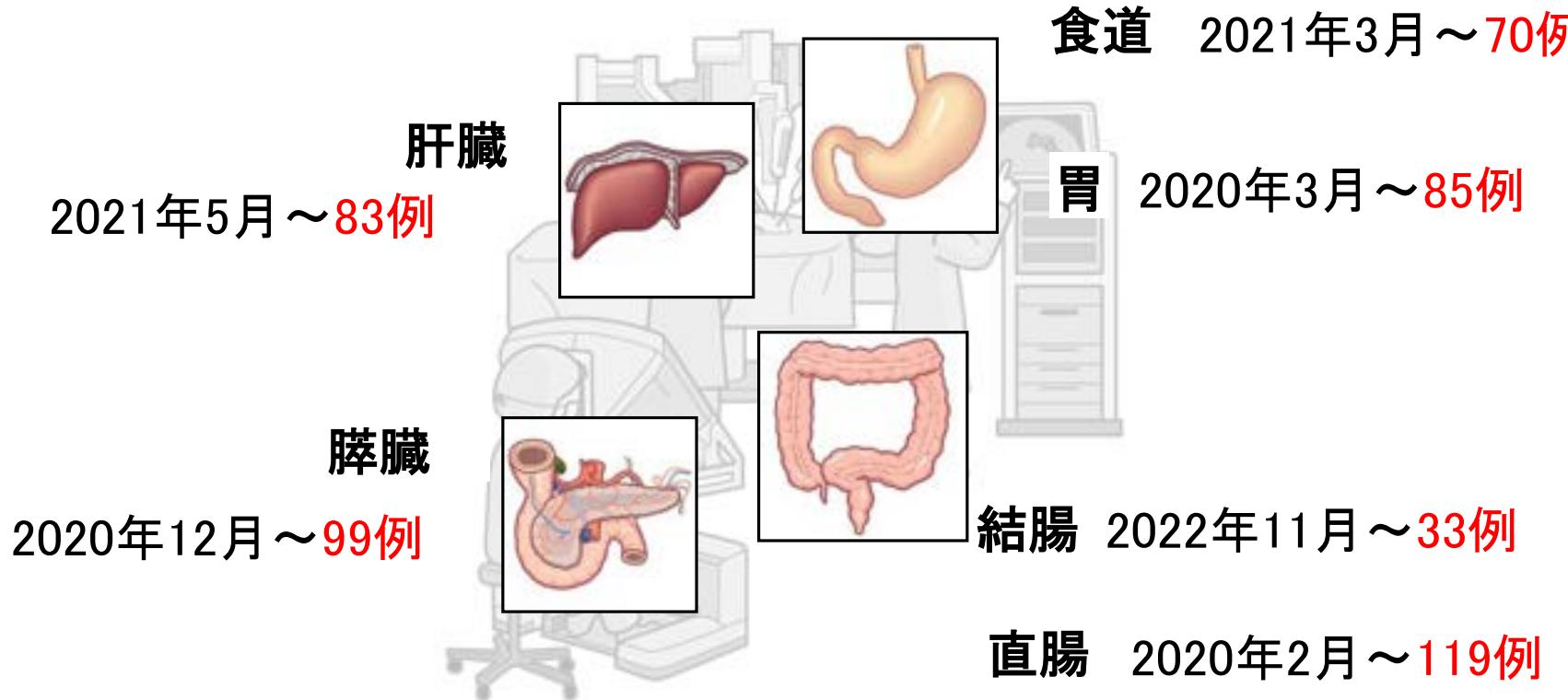


長崎大学での肝移植 (1997-2025.11, n=390)

■ 生体肝移植 ■ 脳死肝移植



当科におけるロボット支援下手術の導入状況



症例数は2025/11月時点

報道機関 各位

九州初、手術支援ロボット「Hugo」を導入

5月12日に記者レクを開催

長崎大学病院では、2025年3月に手術支援ロボット「Hugo（ヒューゴ）」を導入しました。これにより、当院のロボット手術支援体制は、既存の「Da Vinci Xi」2台に加え、計3台体制となります。Hugoは、2022年12月に日本国内で承認された比較的新しいロボット支援手術システムで、九州地区では初の導入となります。

2025年4月中旬、泌尿器科・腎移植外科において第1例目のHugoによる手術を実施し、安全に終了しました。当院では年間約550件のロボット支援手術を行っており、その需要は年々増加しています。こうした背景から、第3の手術支援ロボットの導入を検討し、このたびの導入に至りました。

Hugoは今までに無いコンセプトで作られたロボットシステムで、操作範囲が広く大きな間節可動域を有しており、ロボット手術における新たな選択肢として活躍が期待されています。

現在、泌尿器科・腎移植外科、大腸・肛門外科での運用を開始しており、今後は胃・食道外科、産科婦人科への導入も予定しています。

【Hugoの主な特徴】

- ・アームカートが独立しており、挿入位置を自由に設定できるため柔軟なセッティングが可能。
- ・操作画面がのぞき込まないオープン型のため患者さんの顔や全身状態を確認でき、スタッフと円滑なコミュニケーションが可能。
- ・患者さんの術式に応じてアームの配置や本数の最適化が可能で術式の多様化にも対応できる。



オープンコンソールでの操作



ベッドサイドでの操作



Hugo RAS システムのユニット

大学教室での臨床研究 特にこういう症例、ご紹介ください！

- 上部班 → 胃癌：PHOENIX On going **4型胃癌（大型3型で4型likeでも可）+ CY1P0**
食道癌：DISCOVER試験 適応：切除可能またはT3br/T4a 進行食道癌 cStage II以上
内容：血中ctDNA検査による進行再発診断予測
- 下部班 → 直腸癌：**低位直腸癌に対する放射線療法症例、下部進行直腸癌症例**
結腸癌・直腸癌：遠隔転移を伴う進行大腸癌
- 肝胆膵班 → **胆管癌転移再発/FGFR2陽性症例**
膵頭十二指腸切除 → 施設認定維持
先天性胆道拡張症/ 膵胆管合流異常 → ロボット手術
肝細胞癌：ICI+肝切除 → 特定臨床研究 STRIDE-X：主任研究者 江口 晋
切除**可能**大腸癌肝転移 (Perseus試験、RCT。肝切除前後の化学療法あり)
切除**不能**大腸癌肝転移 (先進医療Bの生体肝移植。単アーム。手術の部分だけ自費で、凡そ260万)
- 乳腺・内分泌班 → **TNBC 腫瘍径2-3cm、cN1まで** (response guideの非特定臨床研究)
乳癌化学療法による**脱毛予防**の希望がある方 (治療開始前の紹介をお願いします)
- 小児班 → 小児ヘルニア疾患、小児慢性便秘、胸郭、呼吸器疾患
- 化学療法班 → 1) 進行・再発大腸癌の三次以降のライン (いわゆるサルベージライン)
2) 進行再発胃癌一次治療

(2025年1月～2025年11月)

新規専門医/指導医 (学内)

日本小児外科学会 指導医 小坂 太一郎

日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術プロクター認定 (消化器・一般外科)
井上 悠介

日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術プロクター (消化器・一般外科)
小林 慎一郎

日本外科学会 指導医 松島 肇

日本肝胆脾外科学会 肝胆脾外科高度技能専門医 松島 肇

日本消化器病学会 指導医 今村 一步

日本消化器病学会 専門医 右田 一成

など

(2024年1月～2024年12月)

新規専門医/指導医（学外）

日本救急医学会 救急科専門医 黒田 宏昭

日本内分泌外科学会 指導医 前田 茂人

日本胸部外科学会 専門医 円城寺貴浩

日本消化器外科学会 専門医 川原 大輔、哲翁 華子

日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 川原 大輔、哲翁 華子

日本内視鏡学会 専門医 丸屋 安広

日本大腸肛門病学会 指導医 岡田 和也

da Vinci Certificate (First Assistant) 円城寺貴浩、中山 嵩士

da Vinci Certificate (Console Surgeon) 黒木 保、北里 周、米田 晃 など

※現在までに医局で把握している情報です。引き続き、新規の資格はご連絡ください。

今後の臨床の展開(準備状況)

- ・ロボット手術の適応拡大
- ・新規機器(Hugo)を用いたロボット手術の件数増加
- ・腹腔鏡下成人ドナー肝切除(R8改訂での右葉・左葉グラフト採取)
- ・脳死下小腸移植
- ・遠隔手術指導の展開 (五島中央病院ー長崎大学病院)

教室の実績 2025

- 臨床
- 教育
- 研究
- 社会活動・国際貢献
- その他

卒前教育

- ・社会学講義(医と社会、英語の重要性etc)
- ・系統講義(消化器系、内分泌系、小児系、外科治療学)
- ・TBL、PBL、OSCE
- ・臨床実習:ポリクリ、クリクラ
- ・post ccOSCE、卒前集中講義

卒後教育

- ・専門医育成(関連病院の先生方)

大学院教育

学生教育

医学知識を伝えるのも大切だが、

「外科がどのような仕事で、

自分達がその仕事をどれだけ好きで、

それを学生達に教えるのがどれだけ楽しいか」

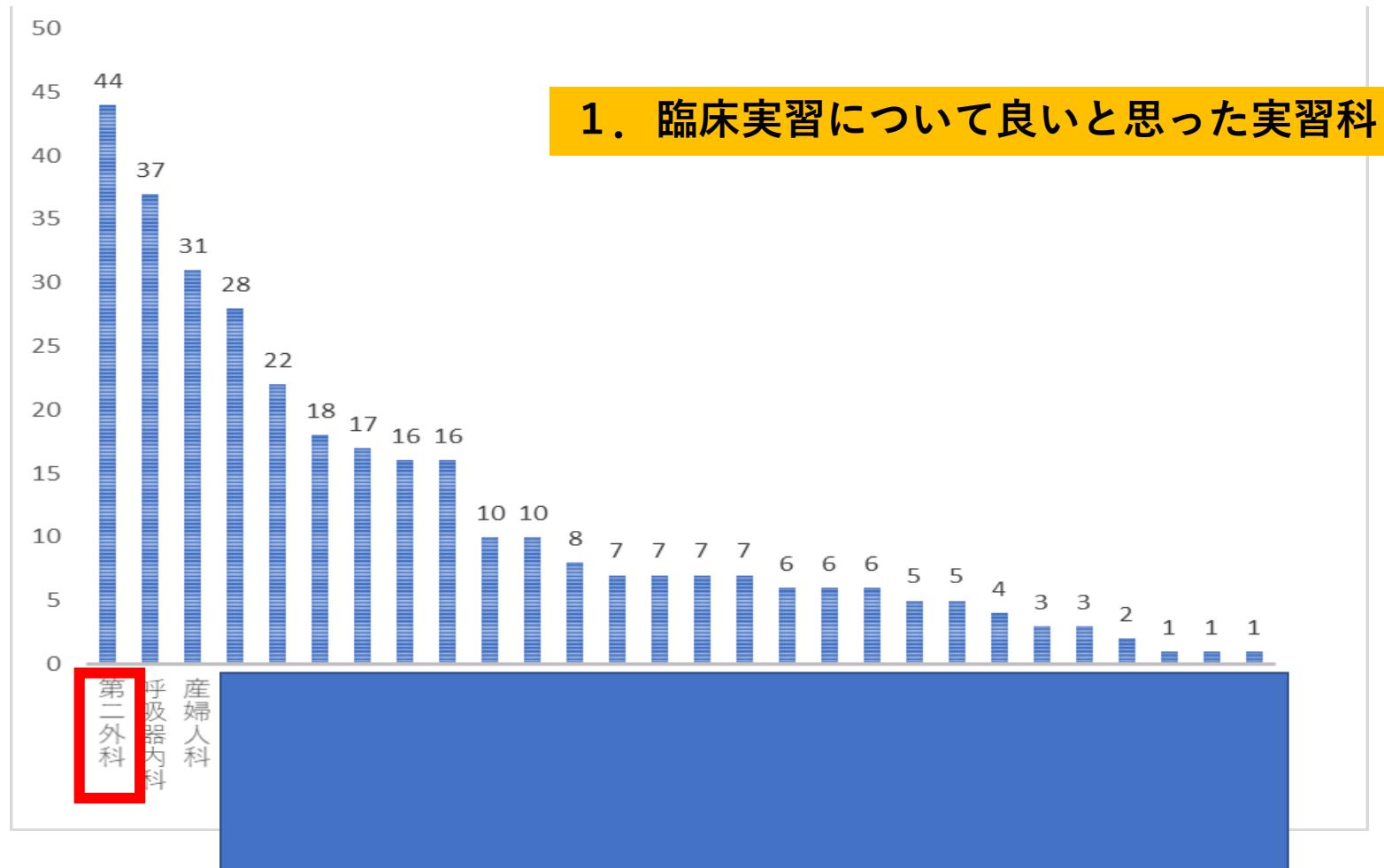
が解る様に。

臨床実習（ポリクリ、クリクラ）

アンケートで**5年連続学内No1**の評価をいただきました！

対象：2024年度5年生（ポリクリ 128名）

(アンケート実施日：2025年1月6日)



＜第二外科を良いと思う理由＞

勉強になった。手技もできた(3)

手技・手術がおもしろい(2)

雰囲気がよく、多くの手技を経験できた(2)

手術をたくさん経験できることや、班を超えて手術に参加でき、様々なことを学べたことが良かった。(2)

クリクラの先輩がいなかったので手技をたくさんやらせて頂いたから

カンファでの議論や解説が勉強になり、多くの話を聞くことができたから

多くの時間をチームの方と共にさせていただき、充実した実習を過ごすことができた

手技や移植の見学、学会への参加など経験するものが多くあったから

ガイドラインに基づいて多様な外科手技が行われていることを実感できた

手技の実践もでき、先生方が熱心に指導してくださった

先生方の指導がとても良かった。ケースレポートを書くにあたっての考え方や必要不必要情報の取捨選択などを学ぶことができた。手技練習も様々できた

非常勤講師の先生方

医学部講師

大塚 隆生 教授
(鹿児島大学)



嵩下 英次郎院長
(友愛医療センター)



黒木 保 先生
(長崎医療センター)



田島 義証 先生
(長崎百合野病院)



川下 雄丈 先生
(福岡青洲会病院)



大学院講師

高槻 光寿 教授
(琉球大学)



第17回良順教育賞 2025年3月12日



曾山 明彦准教授(H12卒)



2025 受賞



佐藤 彩香 (H30卒)

ILTS2025 Young Investigator Award



木下 紗華 (H18卒)

第35回九州内視鏡・ロボット外科学術研究会
優秀演題賞



川口 雄太 (H29卒)

2025年 日本Acute Care Surgery学会
最優秀論文賞



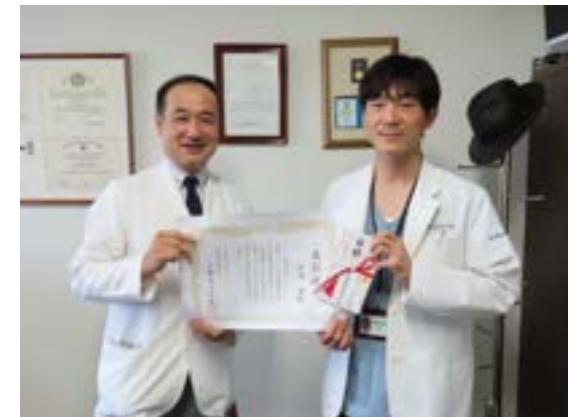
今村 一歩 (H21卒)

第56回日本胰臓学会大会
Pancreas Cap of Surgery



右田 一成 (H29卒)

第43回日本肝移植学会学術集会
優秀演題賞



松島 肇 (H19卒)

長崎医学同窓会医学研究助成金

教室の実績 2025

- 臨床
- 教育
- 研究
- 社会活動・国際貢献
- その他

学位取得者 2名

福本 将之 博(医歯薬) 甲第1710号

授与日; 2025年6月4日

タイトル: Characteristics of chemically induced liver progenitors derived from a pig model of metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease (脂肪性肝疾患モデルブタ由来CLiP (化学的に誘導した肝前駆細胞) の特徴)

藤田 拓郎 博(医歯薬) 甲第〇〇号

授与日; 2025年12月3日予定

タイトル: Presensitization accelerates antibody-mediated rejection in mouse intestinal transplantation (前感作マウス小腸移植モデルを用いた抗体関連拒絶に関する研究)

2025年度 第一回リサーチ検討会 (2025. 5. 7 @第1カンファランス室)

4年生



藤田 拓郎 H24 吉野恭平 H27 円城寺貴浩 H25 哲翁 華子 H28 右田 一成 H29 川口 雄太 H29 栗崎 健 H29 李 陸洋

3年生



佐藤 彩香 H30 Askeyev Baglan



2年生



笠 伸大郎 H29 李 天洋

1年生



中村 瞬 H30 久保飛翔 H31 小川伸一郎 R2 黒瀧航希 R2 中山嵩士 R2 布下裕基 R2 亀浜 郁佳 R2 AKHMET DIYAR ZHANG BOLIN

外部資金：文科科研 新規 5件

| 氏名 | 研究種目 | 研究課題 |
|--------|------------|--|
| 原 貴信 | 基盤研究(C) | リプログラミング肝前駆細胞を用いた肝切除後肝不全に対する肝再生促進治療 |
| 今村 一歩 | 若手研究 | 膵島/脂肪由来間葉系幹細胞シート由来の細胞外小胞を用いた老化膵島"若返り"の研究 |
| 濱田 隆志 | 若手研究 | 高齢肝に対しSenolytic Drugを投与することで生じる肝再生への影響 |
| 山口 峻 | 研究活動スタート支援 | 独自の腹腔鏡下筋芽細胞シート移植技術による結腸直腸縫合不全予防の研究 |
| 小川 伸一郎 | 研究活動スタート支援 | 短腸症候群に対する筋芽細胞シートを用いた腸管延長術開発の基礎的検討 |

継続 6件

| 氏名 | 研究種目 | 研究課題 |
|--------|------------|--|
| 金高 賢悟 | 基盤研究 (C) | 短腸症候群治療を目的とした細胞シートによる新規小腸延長術式の開発 |
| 曾山 明彦 | 基盤研究 (C) | 化学的誘導肝前駆細胞によるin vivoにおける胆管再構築 |
| 足立 智彦 | 基盤研究 (C) | 低分子化合物によるリプログラミング技術を用いた自己非 β 膵細胞からの新規 β 細胞誘導 |
| 小林 慎一朗 | 若手研究 | ケミカルプログラミングによる次世代消化管再建の開発 |
| 右田 一成 | 研究活動スタート支援 | 高齢肝再生不全に対するSenolysisの試み |
| 宮本 大輔 | 若手研究 | 異所性腸管細胞シートによる生体内グラフトの創製 |

2025 公的プロジェクト

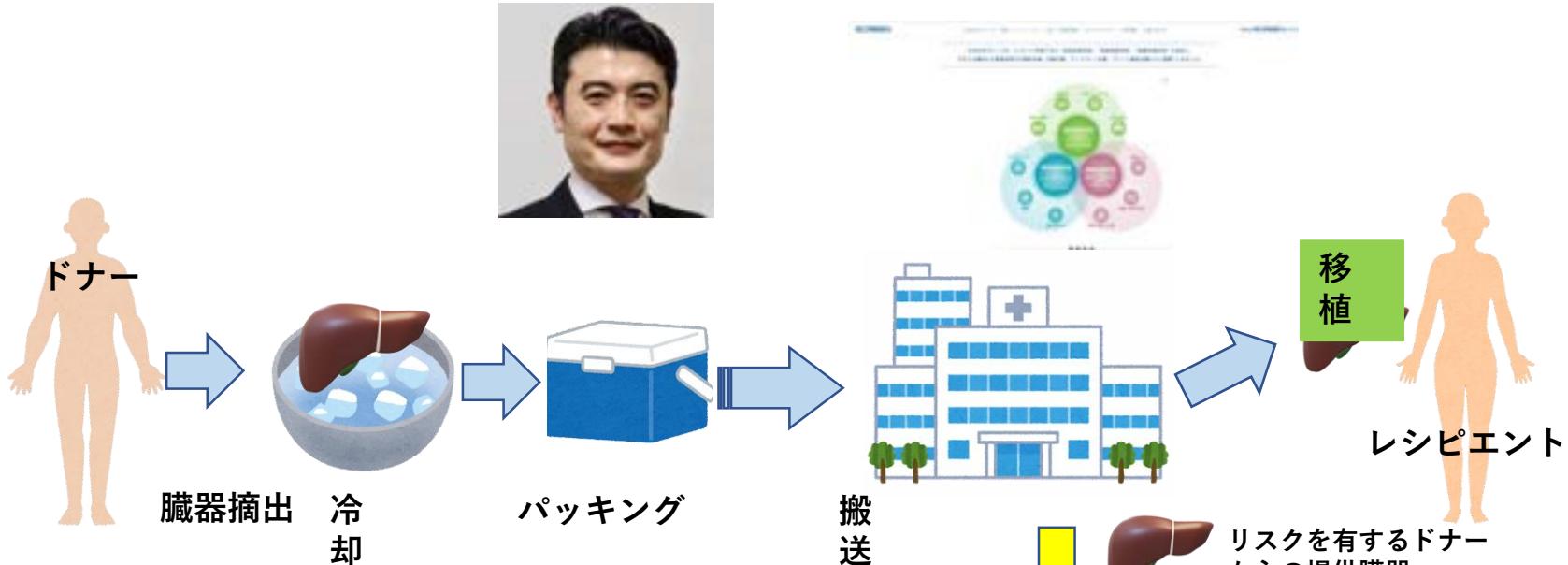
1. 血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する
肝移植を含めた外科治療に関する研究 (厚労科研)
2. 肝移植における提供臓器使用率と治療成績向上を目的とした
最適な低温酸素化灌流臓器保存技術に関する研究 (AMED/スクリーン共同研究講座)
3. 低分子化合物によるヒト肝前駆細胞(CLiP)を用いた肝硬変治療 (AMED)
4. 肝硬変患者に対する自家CLiP細胞移植治療の開発 (AMED)
5. ステロイドマウスウォッシュによる乳癌化学療法誘因性の口腔粘膜炎予防を検討する
第Ⅲ相ランダム化比較試験 (AMED)

先端技術展開外科学講座

体外機械還流法によるグラフト機能評価・改善

曾山明彦 准教授 (h12)

(株)SCREEN



**グラフト機能不全の
リスクファクター**
長時間保存例
脂肪肝
高齢ドナー
心停止ドナー
(本邦 現在実施なし)

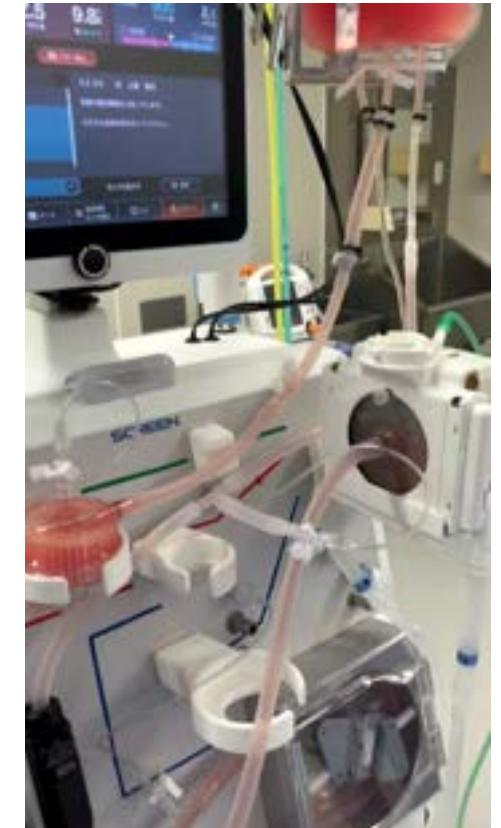
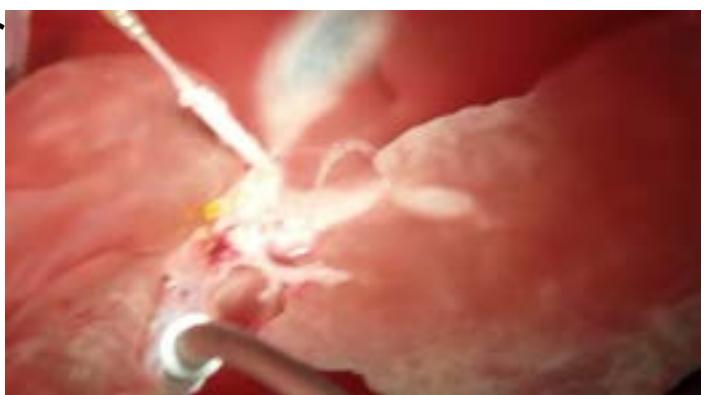
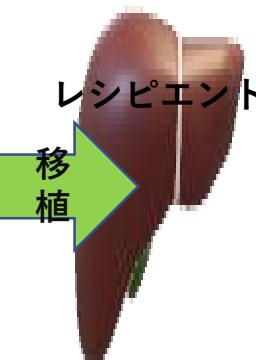
リスクファクターを有する
ドナーからの移植の際、
移植前の機械還流による
機能評価・改善を目指した研究
が行われている。
➢ 欧米では臨床応用あり
➢ **本邦の現状にあった機器・
システム開発が必要**

Machine Perfusion



機械還流し、
機能確認

移植実施率、
移植治療成績の向上



本邦初、臓器灌流保存システムを用いた脳死肝移植に成功

2025年7月30日 プレスリリース



寶山

江口

PRESS RELEASE



長崎大学病院は、2025年5月、国内で初めて、脳死ドナーから提供された肝臓を「臓器灌流システム」で保存した後に、肝移植手術を実施し、無事に成功いたしました。

この手術は、日本医療研究開発機構（AMED）による移植医療技術開発研究事業「肝移植における提供臓器使用率と治療成績向上を目的とした最適な低温酸素化灌流臓器保存技術に関する研究」の一環として、本院で実施している特定臨床研究「脳死肝移植における移植用臓器の低温酸素化機械灌流システムの安全性に関する研究」として実施し、移植医療における大きな前進を示すものです。手術を受けた患者さんは術後、順調に回復し、無事退院されました。



機器灌流保存システムの写真



2025.08.01 読売新聞
(全国版 東京夕刊)

長崎大病院は、移植用に摘出した肝臓をより良い形態に保つため、酵素を起きた保存液を臍器内に循環させる新たな装置を開発。この装置で保存した肝臓の移植手術に成功したと発表した。今後も臨床研究を進め、医療現場への導入を目指していく。
脳死者から摘出した臍器は、現在、低温の保存液に通る。

液循環移植成功の報をもたらす。このことは、状態の悪化を抑える。取り出しへおけられ、自ら安は肝臓でも能く、職で4時間などと限られる。

同病院は、臨床技術で医療機器の評価し、医療機器の承認申請を国に定め、医療機器は歴史的背景から導入している。

福本大の後藤敬也「臨床外科学」の話（准教授）日本での導入が遅い。今回の臨床研究に大きな一歩で、や有効性の検証が

2025.08.02 読売新聞

新聞、TV各社報道

器に酸素含んだ保存液供給



新システムで脳死肝移植成功

長崎大学病院が国内初

2025.07.31 長崎新聞

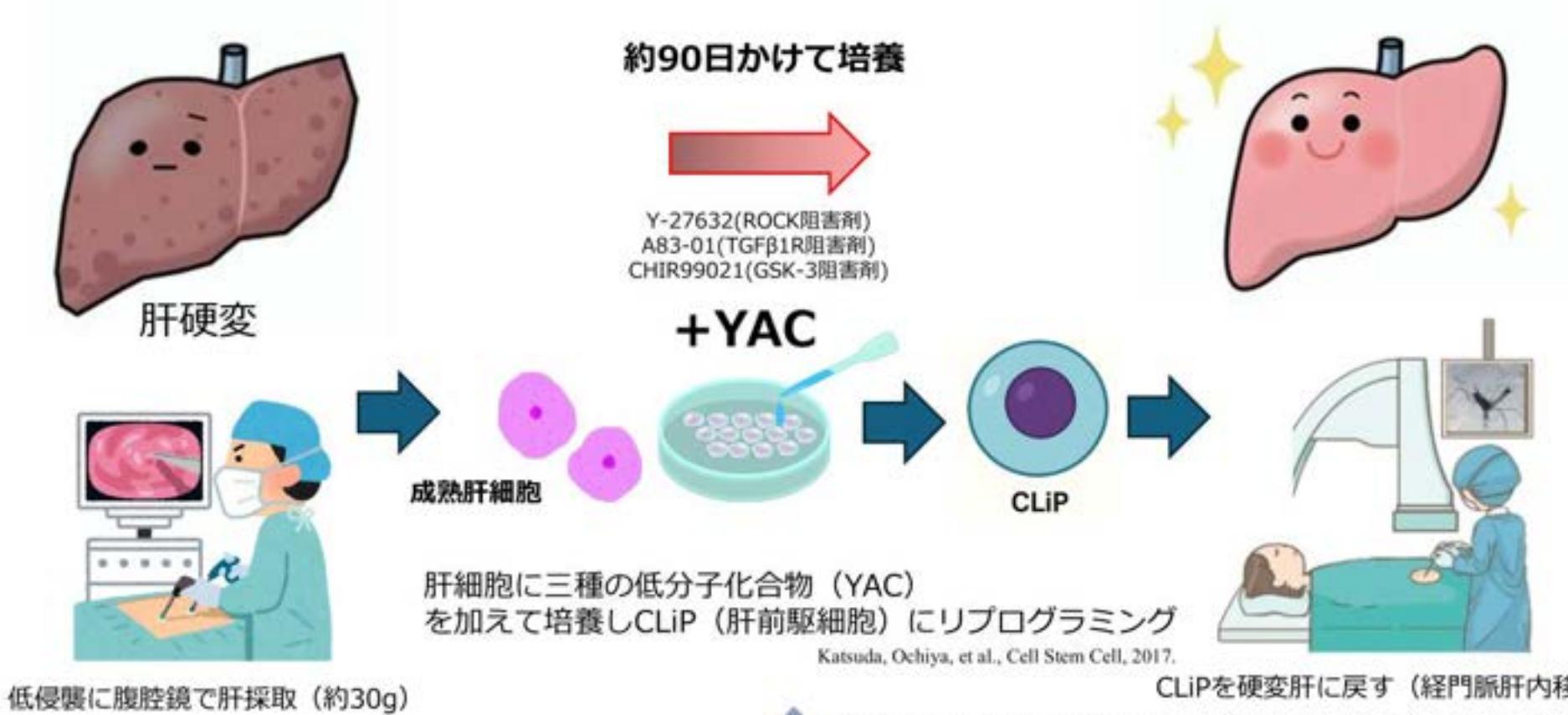
2025.07.31 長崎新聞

実用化までのロードマップ

| | 2017-2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028~ |
|-----------|--|-------------------------------|----------------|------------------------|-------------------|---|--------|
| 求められるレベル | 実験室レベル | | | 細胞調製施設レベル | | 治験製品製造レベル | |
| 非臨床 | 動物疾患モデルでの有効性評価 | | 非臨床安全性試験 | | | | |
| 臨床 | | | | 臨床研究 | | | 医師主導治験 |
| 細胞製造 | | 生物由来原料基準 SOP確立 | 製法の 至適化 | 品質管理 COA, CPPの探索/評価 | CDMO製造 技術移転・PV | | 治験製品製造 |
| 開発資金/出口戦略 |   | H31年度 再生医療実現拠点 ネットワークプログラム | R2年度 再生医療実用化事業 | | R7年度 再生医療実用化事業 |  | |

非代償性肝硬変(Child-Pugh 分類B)の患者を対象とした
自己肝前駆細胞 CLiP (chemically-induced liver progenitor cells) 移植術

患者さんご自身の肝臓の前駆細胞を使って傷んだ肝臓を再生させる

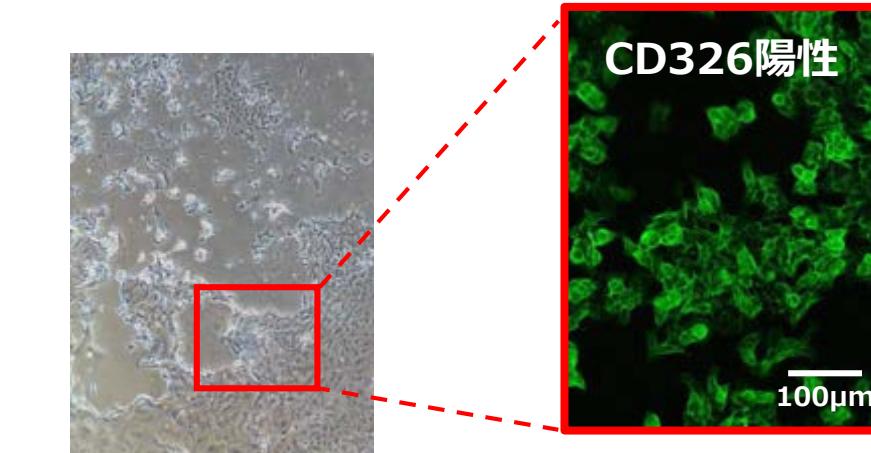
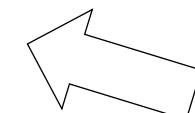
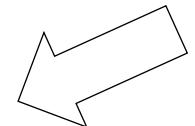


本製品のプロファイル-形状・構造・成分

| | | |
|-------|---------------|-----------------------|
| 製品名 | CLP-001 | |
| 細胞成分 | 自己肝細胞由来CLiP細胞 | 1~2×10 ⁸ 個 |
| 副成分 | ベルレザーUW冷保存液 | 100ml |
| 性状・剤形 | 細胞懸濁液 | |



テルモ分離バック



自己肝細胞由来CLiP細胞



ベルレザーUW冷保存液

本製品のプロファイル-非臨床安全性試験

安全性試験一覧

| 病態モデル | 試験内容 | 非臨床試験に用いた細胞（背景肝、低分子化合物、HGF添加の有無） | 試験方法 | 試験結果/論文発表 |
|-----------------------|--------|-------------------------------------|---|--|
| NASHモデル (MCD給餌マウス) | 一般毒性試験 | ヒトCLiP（背景肝は肝硬変、YAC+HGF、臨床試験製造方法は同じ） | 経脾投与、 2×10^5 個移植 12週間後に評価 | 異常所見なし、生存 Miyamoto, et al., JHPBS 2024 |
| ミニブタMAFLDモデル | 一般毒性試験 | ブタCLiP（背景肝はMAFLD、YAC+HGF） | 経脾静脈投与、 5×10^7 個移植 4週間後に評価 | 異常所見なし、生存 論文未発表 |
| ヌードラット | 造腫瘍性試験 | ヒトCLiP (CLP-001-02、臨床試験と同等) | 経門脈投与、 1.4×10^6 cells/g肝臓 16週間後に評価 プロトコルはPMDA同意済 | 腫瘍形成なし 論文未発表 |
| NOD-SCIDマウス | 造腫瘍性試験 | ヒトCLiP（背景肝は正常肝、YAC） | 経脾臓投与、 1×10^6 個 6か月後、12か月後に評価 | 腫瘍形成無し 論文未発表 |
| NOD-SCIDマウス | 造腫瘍性試験 | ヒトCLiP（背景肝は肝硬変、YAC+HGF）シート | 皮下に細胞シートとして移植 12週間後に評価 | 腫瘍形成無し Miyoshi, et al., J Gastroenterol. 2022 |

ヌードラットに対するCLP-001-02の経門脈投与による造腫瘍性試験結果を1種の審査資料に追加

臨床試験概要

| | |
|----------|--|
| 試験名 | 肝硬変患者を対象とする LPC-001の第I相臨床試験 |
| 種類 | 非盲検、単群試験 |
| 試験期間 | 令和7年7月～令和10年3月 |
| 対象疾患 | 非代償性肝硬変 (Child Pugh B) |
| 投与量/投与方法 | 目標 1×10^8 個 (下限 5×10^7 個) / 小開腹下、腸間膜静脈経由で経門脈的に肝内へ移植、単回投与 |
| 主要評価項目 | 安全性：肝組織採取のための腹腔鏡下肝部分切除術から被験製品投与開始後1か月までに発現した有害事象及び不具合 |
| 副次評価項目 | 有効性: Child Pughスコア変化量、Child Pughスコア改善割合、Child Pugh分類の改善率、ALBIグレード変化量 |
| 主な選択基準 | <p>以下の基準を全て満たす被験者を対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 同意取得時に年齢が満20歳以上80歳以下である患者2) 肝硬変と診断されていることが、以下のいずれかで確認できる患者<ul style="list-style-type: none">・肝生検により肝硬変が病理学的に確認された患者・スクリーニング時のフィブロスキャンで肝硬度が12.5kPa以上であり、線維化ステージF4（肝硬変）に該当する患者3) 90日以上離れた2点においてChild-Pughスコアが7～9点（Child-Pugh分類B）の範囲内にある患者4) 以下のいずれかの非代償性肝硬変である患者<ol style="list-style-type: none">① HCVまたはHBVに起因する非代償性肝硬変患者<ul style="list-style-type: none">・C型肝炎に罹患し、登録時にSVRを達成してから12か月以上経過しているHCV非代償性肝硬変患者・血清HBV-DNA陽性またはHBs抗原陽性で、核酸アナログ製剤の投与開始から12か月以上経過しているHBV非代償性肝硬変患者② MASHと診断された非代償性肝硬変患者③ アルコール性肝障害に起因する非代償性肝硬変患者で、同意取得前に6か月間の禁酒が出来ている患者5) ECOGのパフォーマンスステータスが2以下である患者6) 本研究への参加について、本人の自由意思による文書同意が取得されている患者 |

研究の遅延について（遅延の内容、理由、対応策）

九大院研倫第545号
令和7年7月10日

長崎大学病院
病院長 尾崎 誠 殿

国立大学法人九州大学
九州大学病院長 中村 雅史

再生医療等提供計画等に係る意見書について

このことについて、九州大学病院特定認定再生医療等委員会における審査結果について、下記の書類を別紙のとおり送付いたします。

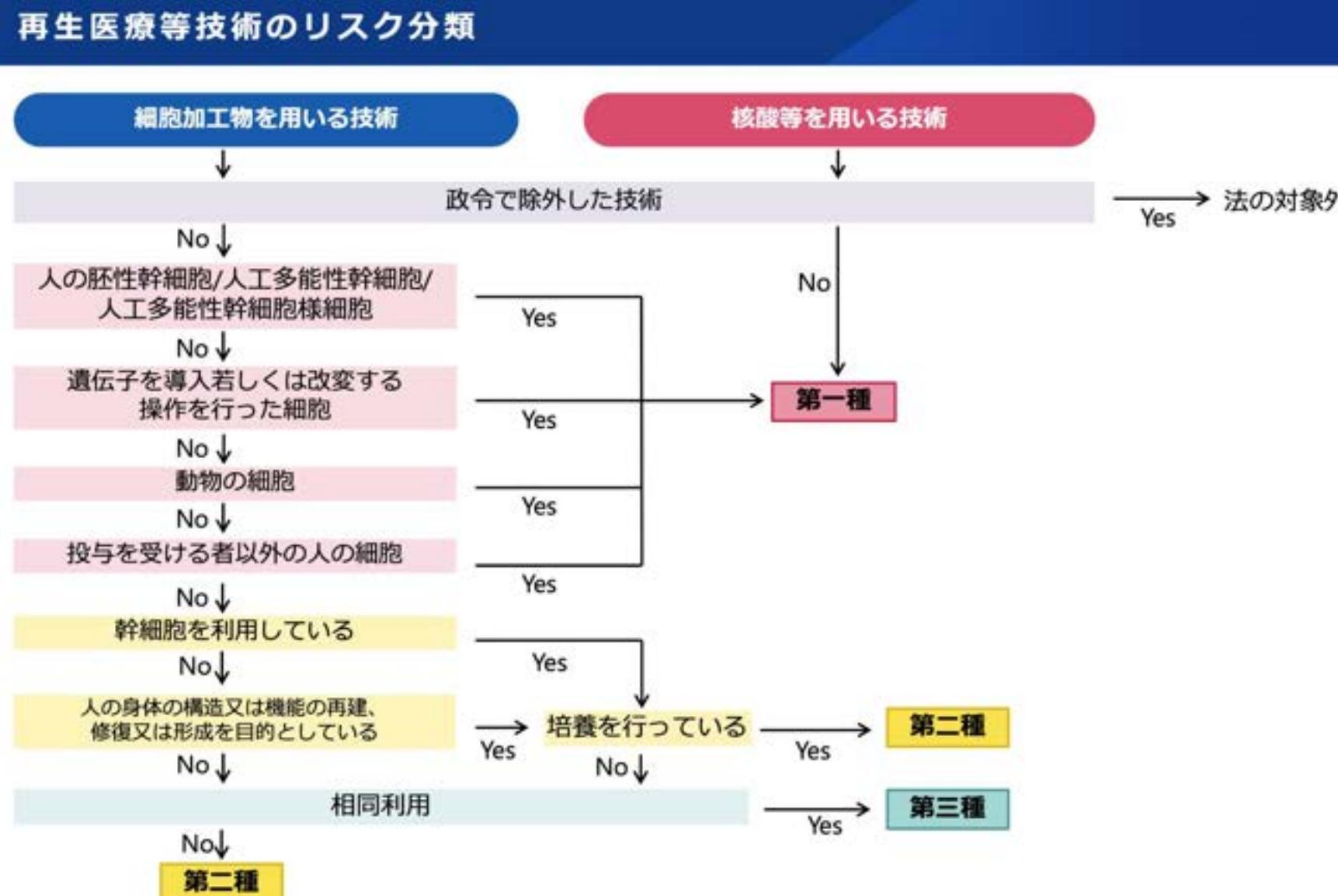
別紙様式第五（法第二十六条関係）（裏面）

| | | | |
|----------|--|-----------------------------|-------------------------------|
| 審査区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 委員会の開催による審査（委員会開催日：西暦2025年6月23日） | | |
| | <input type="checkbox"/> 則規第64条の2第3項に基づく簡便な審査等（審査日：西暦 年 月 日） | | |
| | <input type="checkbox"/> 則規第64条の2第4項に基づく緊急審査（審査日：西暦 年 月 日） | | |
| 審査等業務の結論 | <input checked="" type="checkbox"/> 適 | <input type="checkbox"/> 不適 | <input type="checkbox"/> 繼続審査 |
| 意見の内容 | 審議した結果、適とする。 | | |
| 意見の理由 | 内容を確認し、全員一致で合意したため。 | | |

（留意事項）

- 用紙の大きさは、A4 とすること。
- 各項目の記載欄にその記載事項の全てを記載する事ができないときには、同欄に「別紙のとおり。」と記載し、別紙を添付すること。
- 「再生医療等提供計画の計画番号」には、研究として行う再生医療等の場合は、jRCT番号を、それ以外の場合は再生医療等提出状況管理システムの計画番号を記載すること。

研究の遅延について（遅延の内容、理由、対応策）



研究の遅延について（遅延の内容、理由、対応策）

平成二十五年法律第八十五号

再生医療等の安全性の確保等に関する法律

第一条 この法律は、再生医療等に用いられる再生医療等技術の安全性の確保及び生命倫理への配慮（以下「安全性の確保等」という。）に関する措置その他の再生医療等を提供しようとする者が講すべき措置を明らかにするとともに、特定細胞加工物等の製造の許可等の制度を定めること等により、再生医療等の迅速かつ安全な提供及び普及の促進を図り、もって医療の質及び保健衛生の向上に寄与することを目的とする。

（定義）

第二条 この法律において「再生医療等」とは、再生医療等技術を用いて行われる医療（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和三十五年法律第百四十五号。以下「医薬品医療機器等法」という。）第八十条の二第二項に規定する治験に該当するものを除く。）をいう。

7 この法律において「第一種再生医療等技術」とは、人の生命及び健康に与える影響が明らかでない又は相当の注意をしても人の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあることから、その安全性の確保等に関する措置その他のこの法律で定める措置を講ずることが必要なものとして厚生労働省令で定める再生医療等技術をいい、「第一種再生医療等」とは、**第一種再生医療等技術**を用いて行われる再生医療等をいう。

研究の遅延について（遅延の内容、理由、対応策）

薬食発0907第5号
平成24年9月7日

各都道府県知事 殿

厚生労働省医薬食品局長

ヒト（同種）iPS（様）細胞加工医薬品等の品質及び安全性の確保について

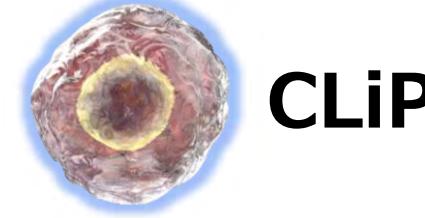
第2 定義

本指針における用語の定義は以下のとおりとする。

- 1 「ヒト人工多能性幹細胞（iPS細胞）」とは、ヒト体細胞を遺伝子導入・タンパク質導入・薬剤処理等により人為的に初期化して得られる細胞又は当該細胞の分裂により生ずる細胞であって、内胚葉、中胚葉及び外胚葉の細胞に分化する性質を有し、かつ、自己複製能力を維持しているもの又はそれに類する能力を有することが推定されるものをいう。
- 2 「ヒト人工多能性幹細胞様細胞（iPS様細胞）」とは、ヒト体細胞を、遺伝子導入・タンパク質導入・薬剤処理等により人為的に脱分化して得られる細胞又は当該細胞の分裂により生ずる細胞であって、少なくとも内胚葉、中胚葉又は外胚葉の一部の細胞に分化する性質を有し、自己複製能を維持しているもの又はそれに類する能力を有することが推定されるものを指す。

慢性肝障害だけではなく、慢性胆道炎症疾患(PSCなど)にも効果が？

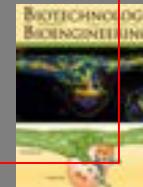
足立智彦准教授
(H12)



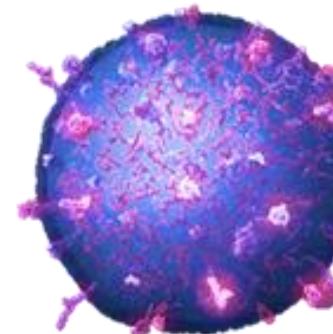
CLiP

CLiPの胆道系細胞への分化能力

Biotechnol Bioeng. 2021
J Biosci Bioeng. 2020
Stem Cells Int. 2019
江口、足立ら (長崎大学)



CLiPのパラクライン効果(エクソソームなど)



PSC等の病態制御に有効な成分

- ・抗炎症作用
- ・免疫制御作用
- ・抗ウイルス・抗バクテリア作用
- ・胆管上皮増殖促進作用
- ・組織修復作用



長谷川佳代 (PhD)

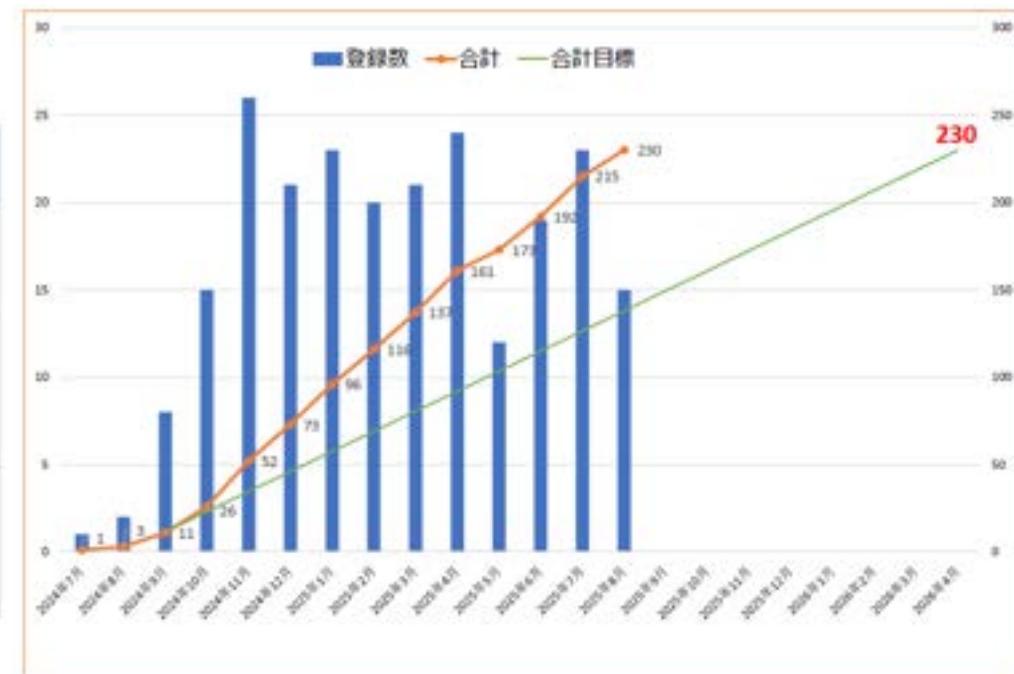
現在、研究2年目



ステロイドマウスウォッシュによる乳癌化学療法誘因性の口腔粘膜炎予防を検討する第Ⅲ相ランダム化比較試験 Steroid Mouthwash for the Prevention of Oral Mucositis in Breast Cancer Chemotherapy (SMASH-BC)

【領域5-3】科学的根拠に基づくがんの支持療法・緩和ケアの開発に関する研究

| 研究開発課題名 | 研究開発代表者 | 所属 | 役職名 |
|---|---------|------------|-----|
| ステロイドマウスウォッシュによる乳癌化学療法誘因性の口腔粘膜炎予防を検討する第Ⅲ相ランダム化比較試験 | 久芳 さやか | 長崎大学 | 講師 |
| 頭頸部悪性腫瘍切除・遊離組織移植術の手術前ステロイド投与の有用性を検証する多施設共同プラセボ対照二重盲検無作為化第Ⅲ相比較試験 | 松浦 一登 | 国立がん研究センター | 科長 |
| 高齢がん患者の術後せん妄予防に対する標準治療の開発（ラメルテオンの有効性と安全性に関する多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験） | 松岡 弘道 | 国立がん研究センター | 科長 |

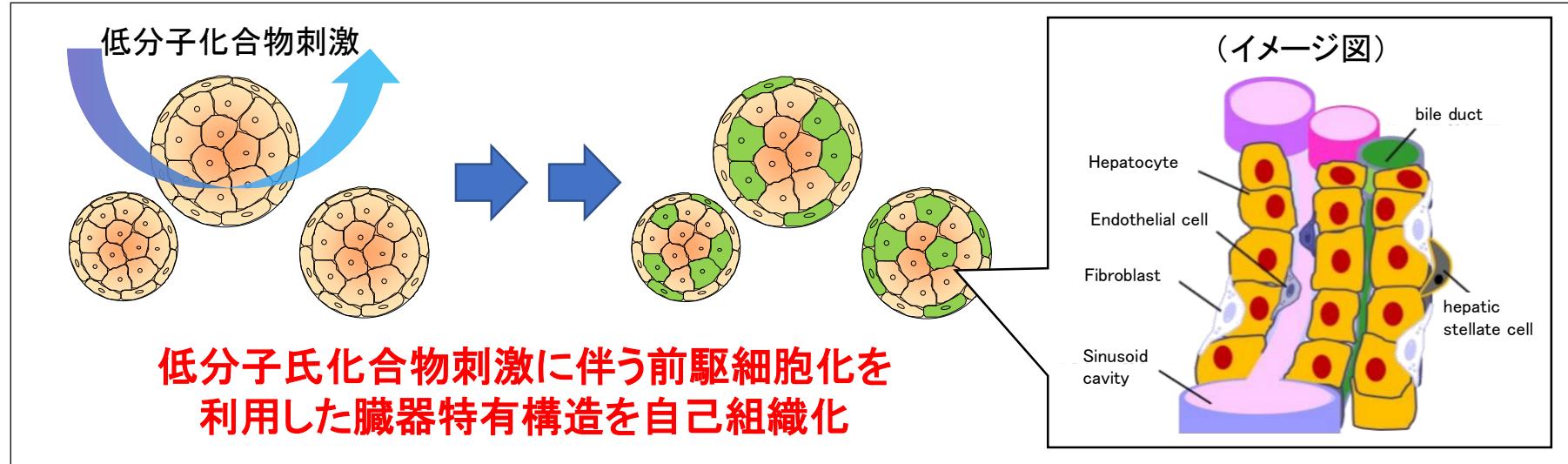




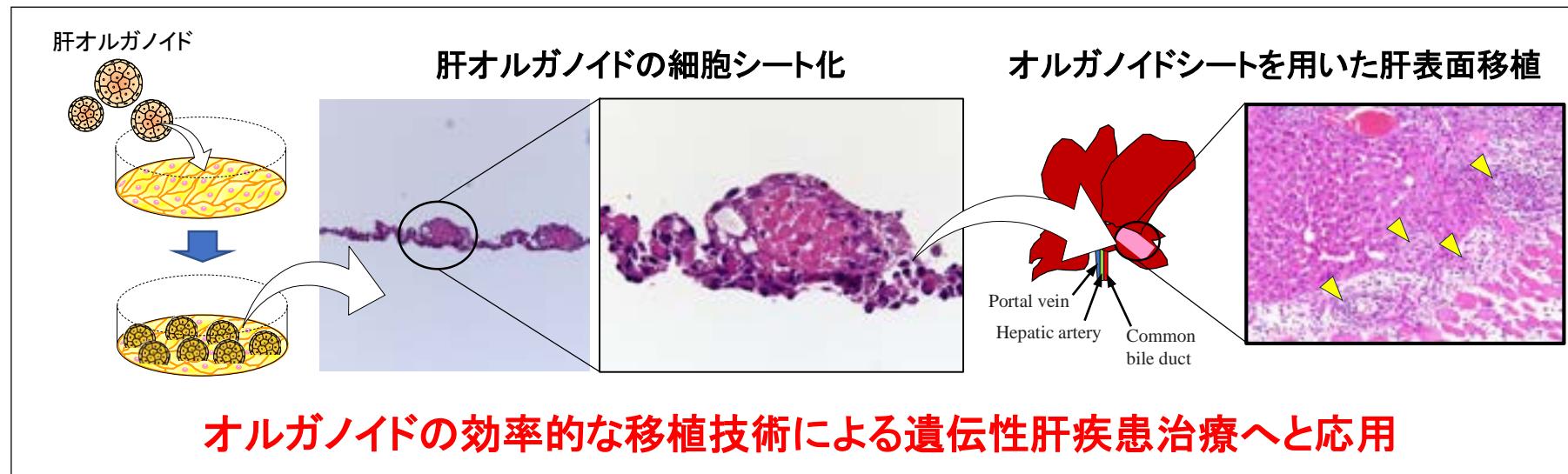
PhD 宮本大輔

細胞移植治療の実現に向けた組織工学技術の開発

低分子化合物刺激を利用した独自のオルガノイド形成



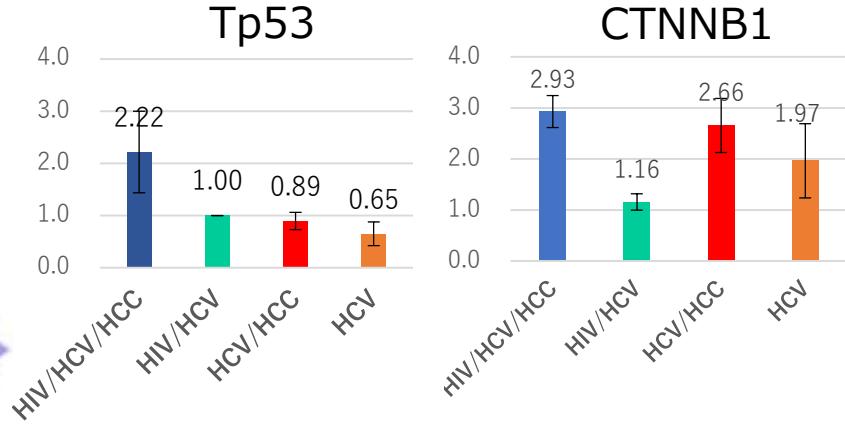
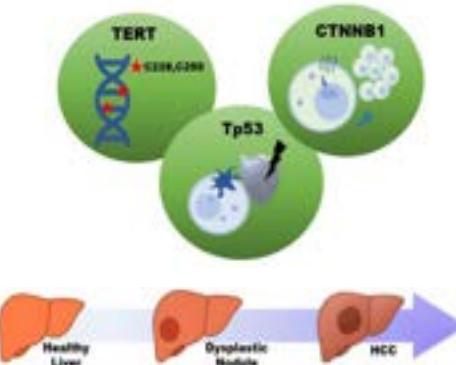
オルガノイドの細胞シート化に伴う効率的な細胞移植治療の実現





HIV/HCV重複感染 HCCドライバー遺伝子解析

国際共同研究（長崎大学、Udine大学）
によるHIV/HCV重複感染
肝細胞癌関連ドライバー遺伝子の包括的解析



PhD 長谷川佳代

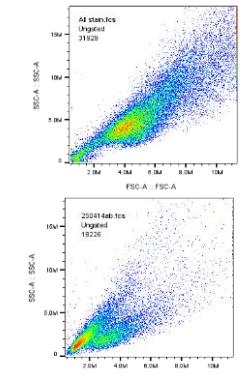
hCLiP HLA- I , HLA- II 解析

免疫原性調査のための
CLiP誘導前後のHLA- I , II 発現
変化の解析

Hepatocyte



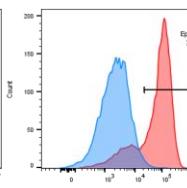
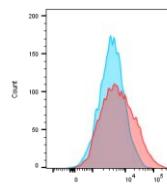
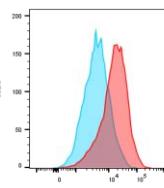
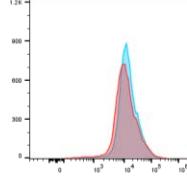
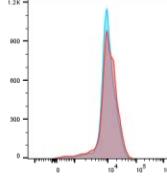
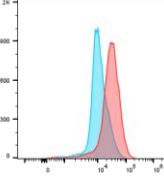
hCLiP



HLA- I

HLA- II

Epcam



PSCモデルに対する Hep-CLiP, GB-CLiP 有効性評価

希少難治性肝・胆道疾患に対する
再生医療の探索研究

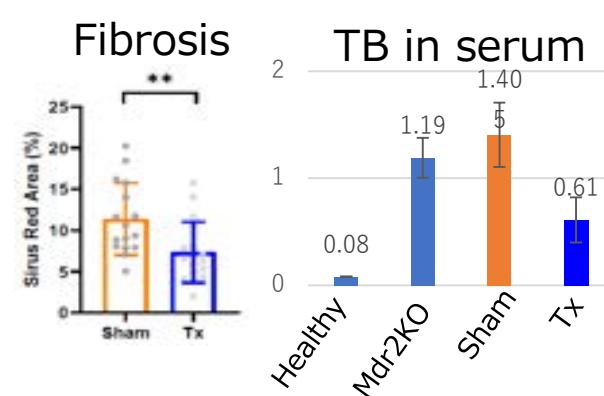
Hep-CLiP



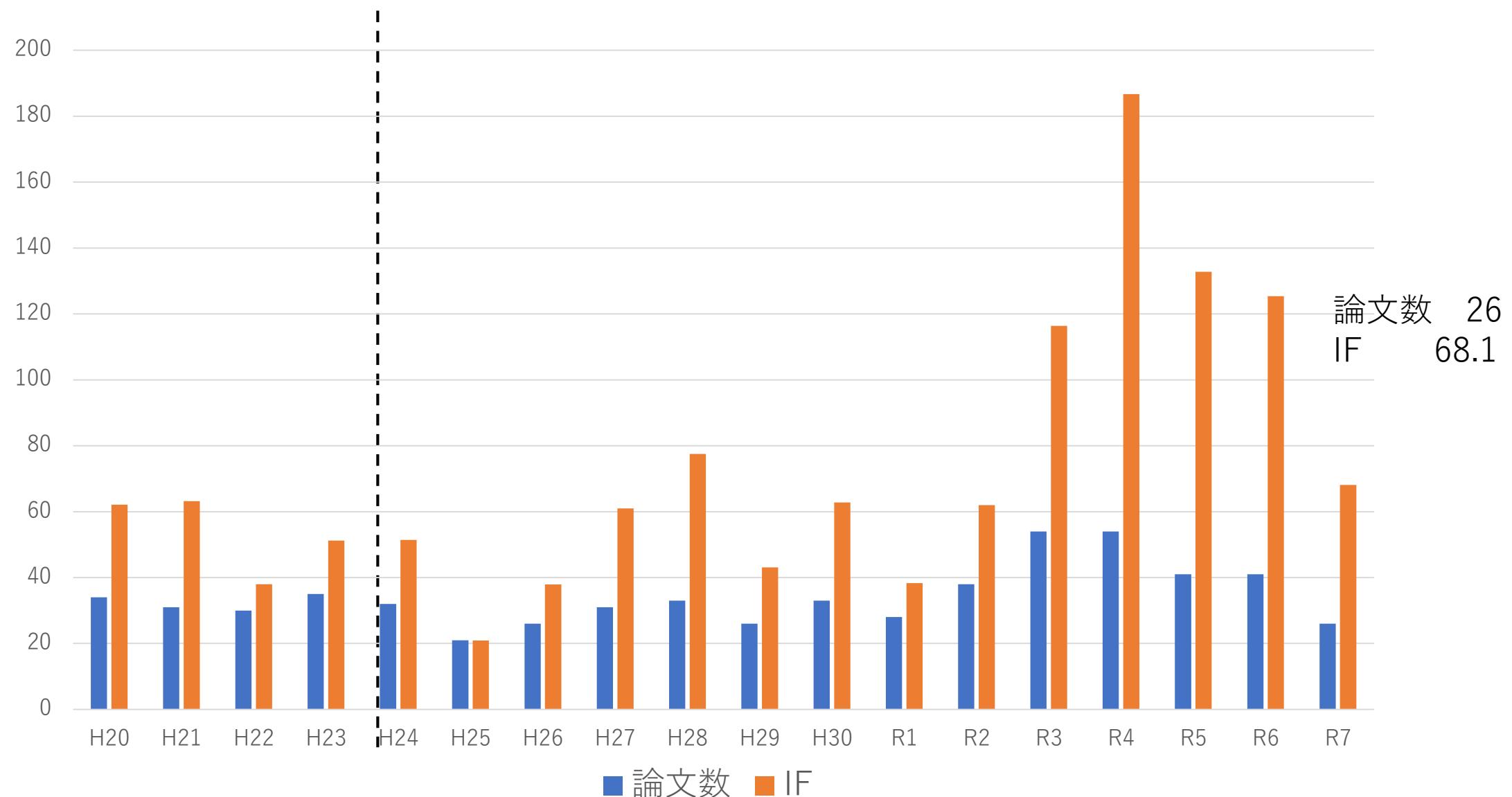
GB-CLiP



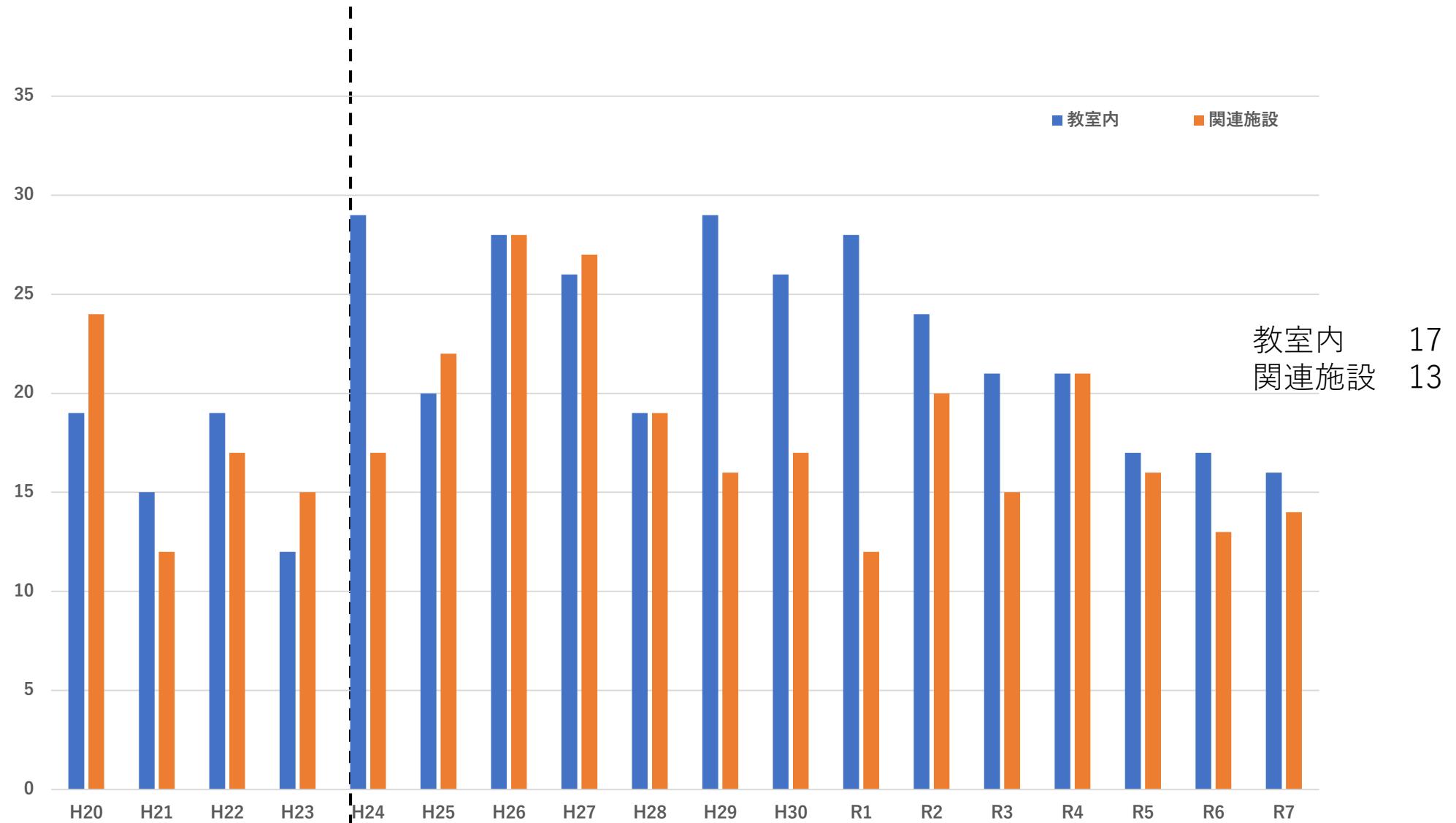
Fibrosis



論文数（英文）とIFの推移



日本外科学会 発表演題数



特許

取得済み

登録番号：特許第7284985号 登録日：2023年5月24日

発明の名称：肝前駆細胞を含む細胞集団を製造する方法

発明者：堺 裕輔、江口 晋

登録番号：特許第7370007号 登録日：2023年10月19日

発明の名称：内視鏡操作支援システム及び内視鏡システム

発明者：小坂太一郎、江口 晋、足立智彦、諸麥俊司

登録番号：特許第6235121号 登録日 2017年11月2日

発明の名称：外科手術用糸輸送器

発明者：江口 晋、黒木 保、小坂太一郎、石松隆和、諸麥俊司

登録番号：特許第7376510号 登録日：2023年10月30日

発明の名称：シート状物貼付デバイス

発明者：堺 裕輔、江口 晋、丸屋安広、大橋文哉、鯫島 正

登録番号：特許第7483233号 登録日：2024年5月7日

発明の名称：培養組織及びその製造方法

発明者：堺 裕輔、江口 晋、足立智彦、黄 宇、新京 楽、相良 沙希、小野里太智

登録番号：特許第7730297号 登録日：2025年8月19日

発明の名称：臓器の表面への貼付のための生着シート状物

発明者：丸屋安広、山口 峻、金高賢悟、東 美樹、江口 晋、大橋文哉、松村匡記

出願中

出願番号：特願2018-175557 出願日：2018年9月20日

発明の名称：シート状物貼付デバイス

発明者：山本郁夫、江口 晋、金高賢悟、丸屋安広、小林慎一郎ら

出願番号：特願2019-23584 出願日：2019年2月13日

発明の名称：切除器具

発明者：江口 晋、日高匡章、小坂太一郎、佐藤 洋、諸麥俊司

出願番号：特願2019-066417 出願日：2019年3月29日

発明の名称：培養組織及びその製造方法

発明者：堺 裕輔、江口 晋、足立智彦、黄 宇

出願番号：特願2020-010071 出願日：2020年1月24日

発明の名称：臓器の表面への貼付けのための生着シート状物

発明者：丸屋安広、山口 峻、金高賢悟、東 美樹、江口 晋ら

出願番号：PCT/JP2021/002375 出願日：2021年1月25日

発明の名称：臓器の表面への貼付けのための生着シート状物

発明者：丸屋安広、山口 峻、金高賢悟、東 美樹、江口 晋ら

出願番号：特願2021-018360 出願日：2021年2月8日

発明の名称：肝臓表面に移植するための細胞シート

発明者：江口 晋、日高匡章

出願番号：特願2021-018430 出願日：2021年2月8日

発明の名称：脾臓の切断面を覆うためのシート状細胞培養物

発明者：丸屋安広、山口 峻、金高賢悟、江口 晋、東 美樹、大橋文哉、甲斐美穂、荒巻直希

出願番号：特願2021-132394 出願日：2021年8月16日

発明の名称：囊胞様構造を有する三次元肝細胞培養物およびその製造方法

発明者：宮本大輔、江口晋、足立智彦、日高匡章

出願番号：PCT/JP2022/030772 出願日：2022年8月12日

発明の名称：囊胞様構造を有する三次元肝細胞培養物およびその製造方法

発明者：宮本大輔、江口晋、足立智彦、日高匡章

出願番号：特願2018-14097 出願日：2018年7月27日

発明の名称：消化管再生のためのシート状細胞培養物

発明者：丸屋安広、松本 亮、小林慎一郎、金高賢悟、江口 晋、大仁田 賢、橋口慶一、大橋文哉、松村匡記

教室の実績 2025

- 臨床
- 教育
- 研究
- **社会活動・国際貢献**
- その他

医局旅行 in 島原 2025年2月22日～2月23日



ブラックジャックセミナー

(2025. 8. 3 @長崎大学病院 第3、4講義室)

腫瘍外科

松本桂太郎教授による開会・閉会の挨拶



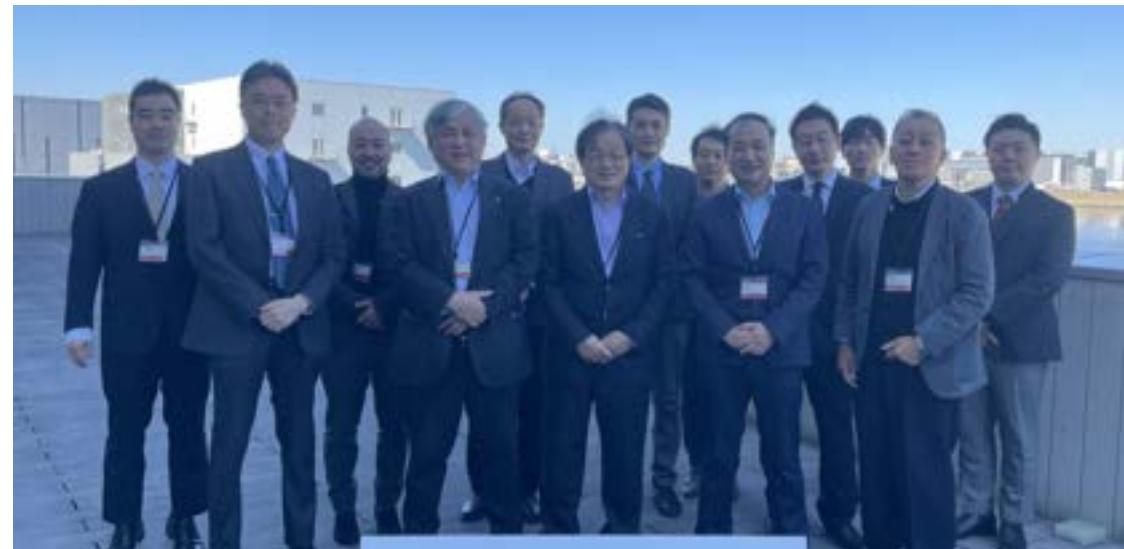
市民シンポジウム「移植って何？」

(2025. 10. 17 @大村図書館)



臓器摘出ハンズオンセミナー

2025年2月14日



| Time | 胸部チーム | | 腹部チーム | | | |
|-------|-----------------------|--------------------------------------|-------------------|---------------|---------------|--|
| | 心臓チーム | 肺チーム | 肝臓チーム | 脾臓チーム | 腎臓チーム | |
| 12:00 | 集合 | | | | | |
| 12:05 | オープニング 江口 晋 先生 | | | | | |
| 12:10 | 手術手順説明 | 胸部：安藤 政彦 先生 / 星川 康 先生 腹部：曾山 明彦 先生 | | | | |
| 12:30 | ブタ胸部操作に関して 福島 教偉 先生 | | | | | |
| 12:40 | ブタ腹部操作に関して 江口 晋 先生 | | | | | |
| | 胸部ブタ部操作説明後 移動/着替え | | 胸部ブタ部操作説明後 移動/着替え | | | |
| 13:10 | ハンズオン (心臓) | ハンズオン (肺) | ハンズオン (肝臓) | ハンズオン (脾臓) | ハンズオン (腎臓) | |
| 16:00 | ハンズオン終了 | | | | | |
| 16:15 | 修了証授与 / アンケート回答 | | | | | |
| 16:30 | クロージング 江口 晋 先生 (長崎大学) | | | | | |

海外からの留学生・研修生

中国



Li Luyang
(2022/4～大学院)
山東省济南市章丘医
人民総合病院



LI Tianyang
(2022/4～大学院)
広州第一人民病院



ZHANG BOLIN
(2025/4～大学院)
江西省華南病院



Baglan Askeyev
(2023/10～大学院)



AKHMET DIYAR
(2024/10～大学院)

JICA ボリビア研修プロジェクト
「消化器疾患4次病院高度専門医育成」事業



HERRERA HEREDIA Fabela
(2025/6/1～)

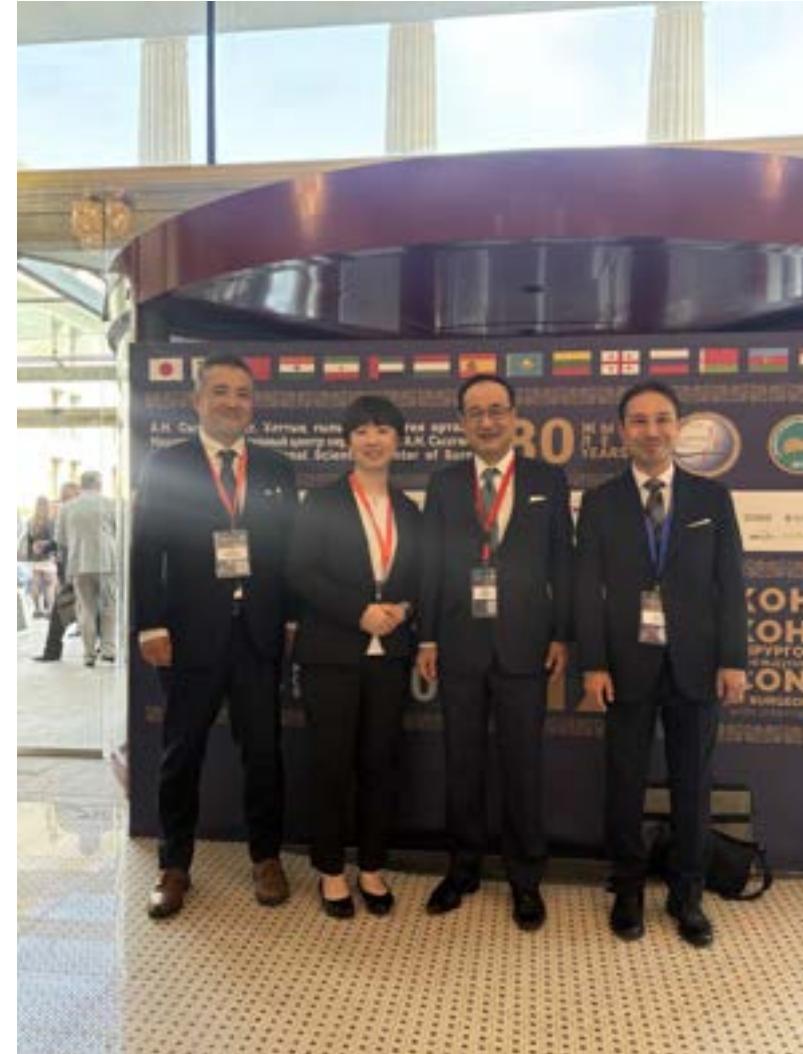


JICA ボリビア訪問 2025年4月12～18日 (江口教授、足立准教授)



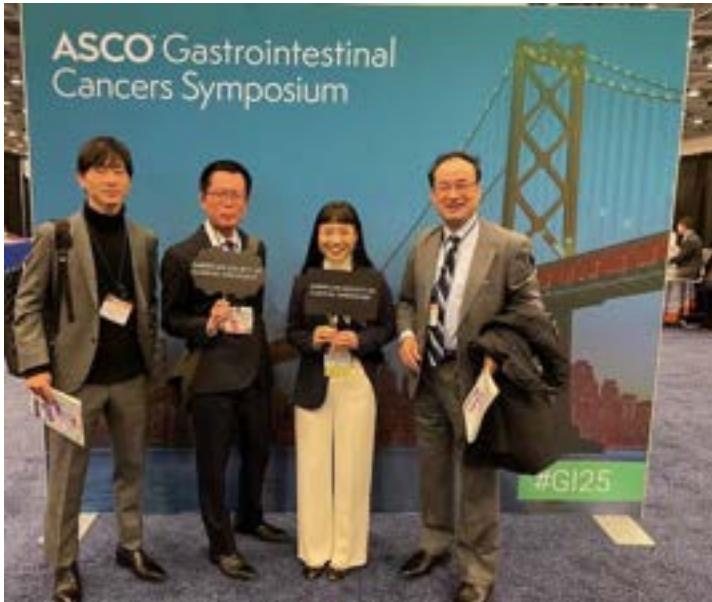
2025年5月28日～6月3日
(小林助教)

カザフスタン外科学会 2025年9月12-13日 (江口教授、小坂講師、佐藤大学院生)



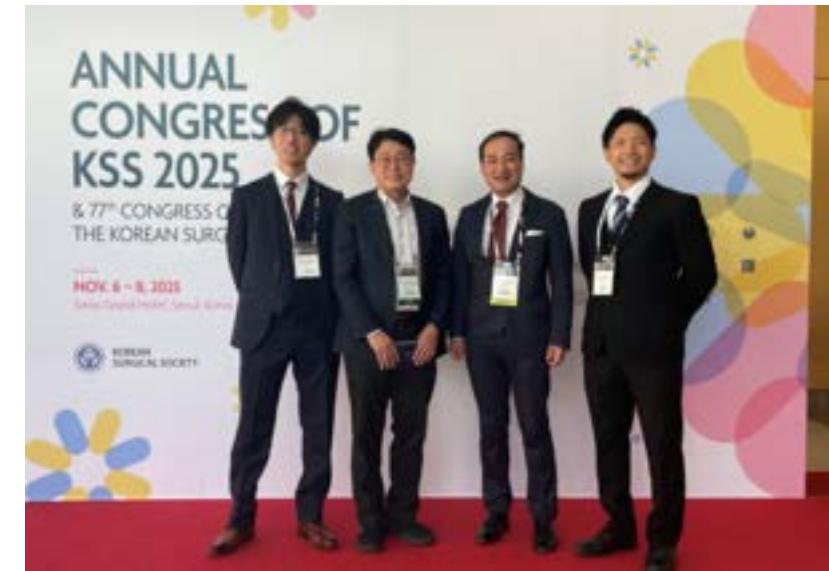
ASCO-GI 2025

2025年1月23~25日 サンフランシスコ



ACKSS 2025

2025年11月6~8日 ソウル



ATW 2025

2025年11月20~22日ソウル



WTC 2025 2025年8月3~5日 サンフランシスコ



Prof. Elmi Muller 招請



所属：ステレンボッシュ大学（南アフリカ ケープタウン）医学部 学部長

臨床の成果を国際政策、国際基準へと反映する“橋渡し役”

- | | |
|------------|---|
| 2008年 | HIV陽性ドナーから陽性レシピエントへの腎移植を世界で初めて実施 |
| 2013年 | 米国 HOPE Act 法 (HIV Organ Policy Equity Act : HIV臓器政策平等法) 成立に貢献 |
| 2016-2018年 | DICGの共同議長を務め、イスタンブル宣言の改訂を主導。移植倫理の世界標準指針を整備 |
| 2018-2022年 | WHO 移植タスクフォース・メンバー |
| 2024-2026年 | 国際移植学会(TTS) 前会長 |



大学院セミナー



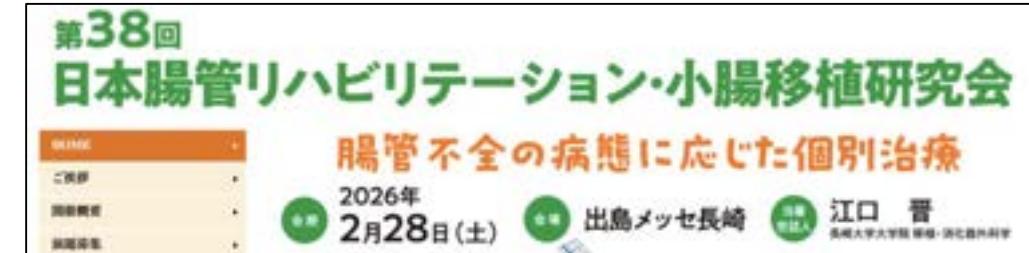
第61回日本移植学会総会
Invited Lecture



医局員と交流

今後の学会主催予定

2026年 第38回 日本腸管リハビリテーション・
小腸移植研究会



2027年 第82回 日本消化器外科学会総会



2029年 第71回 日本消化器病学会大会 (JDDW 2029)

血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する 肝移植を含めた外科治療に関する研究

～江口班のこれまでの成果と今後の展開～

日時 12月7日(日) 9:00-10:00

会場 熊本城ホール

熊本県熊本市中央区桜町3番40号

司会 江口 晋 (長崎大学大学院 移植・消化器外科学 教授)
四柳 宏 (国立健康危機管理研究機構 理事 (研究連携推進担当))

記念講演

秋野 公造 (参議院議員 (福岡県選出))

これまでの成果

日高 匠章 (島根大学医学部 消化器・総合外科 教授)

鼎談

江口 晋

上平 朝子 (国立病院機構大阪医療センター 感染症内科・感染制御部 部長)

肝移植患者



江口 晋



四柳 宏



秋野 公造



日高 匠章



上平 朝子

■第39回日本エイズ学会学術集会・総会 ミニシンポジウム

「血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究」
江口班のこれまでの成果と今後の展開

日時：2025年12月7日（日） 9:00～10:00

会場：熊本城ホール（熊本県熊本市中央区桜町3番40号）

第4会場 会議室B1-3

司会：江口 晋 (長崎大学大学院 移植・消化器外科学 教授)
四柳 宏 (国立健康危機管理研究機構 理事 (研究連携推進担当))

<プログラム>

1. 基調講演：秋野 公造 (参議院議員 (福岡県選出))
2. これまでの成果：日高 匠章 (島根大学医学部 消化器・総合外科 教授)
3. 鼎談：上平 朝子 (国立病院機構大阪医療センター 感染症内科・感染制御部 部長)
江口 晋
肝移植患者

教授秘書 有山舞子さん(旧姓:草野)の結婚式

2025年5月24日



教室の実績 2025

- 臨床
- 教育
- 研究
- 社会活動・国際貢献
- その他

当科における働き方改革

① チーム制による複数主治医制を実践中

→各医師間の情報共有と土日・休日の当番制を確立

②勤務時間内に業務を設定(カンファ、手術開始時間の変更)

③医局内ラボさん、医療事務作業補助者の積極的な採用

→事務業務のタスクシフトにより業務分散、負担軽減

④Robot Processing Automationによる定期的なイベントの自動リマインド設定

→手術入力日、体調管理入力、抄読会の順番通知を自動リマインドメール

⑤病院から患者・家族への業務・医療体制の周知徹底

→複数主治医制や病状説明の時間内実施を推進



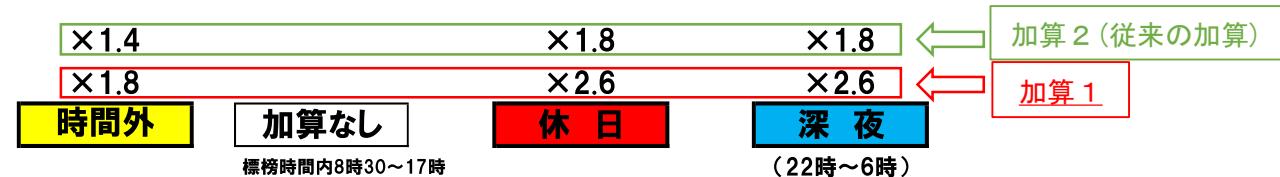
休日・深夜・時間外加算1の導入 (2023. 4-)

- ・チーム制であること



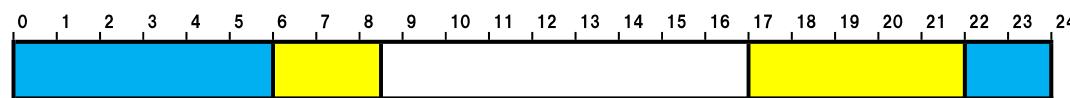
- ・緊急手術翌日の予定手術年間5日まで

手術における時間外等加算の算定可能な時間帯



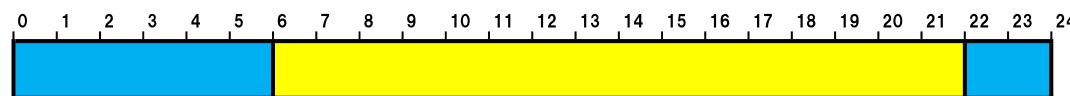
手術開始時間が加算の時間内(青・黄色・赤)に含まれる必要がある。

月曜日～金曜日

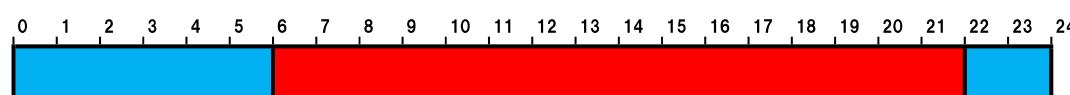


- ・術者・助手に5万円づつインセンティブ

土曜日



日曜日・祝日・12/29～1/3



最近の肝移植レシピエント手術

Diversity, Equity and Inclusion



移植・消化器外科 ホームページ



クリクタカラージュ相談室2023

相談室は二五日

クリクタカラージュ2024

海上二二日 / 海上二二日 / 海上二二日 / 海上二二日 / 海上二二日

医局行事

- 2024/01/14 ■ AFAS Trainee Competition, 2nd Placeを優勝されました！ (福本 誠二)
- 2024/01/21 ■ JCG第2回審査 審査官として基幹研修地の評議会委員会が行いました。
- 2024/01/27 学位を取得しました！ (松原 康二)
- 2024/01/27 営業部署を行いました！ (第二回目)
- 2024/01/17 第6回日本移植学会年会 基幹研修ビースタジアムアート

学会発表情報

- 2024/01/10 ■ (学長報道) PSLB・第43回日本小児内視鏡外科学術研究会研究会 (藤田 佑哉)
- 2024/01/10 ■ (学長報道) TTS2024 (藤田 佑哉)
- 2024/01/28 ■ (学長報道) American College of Surgeons (ACS) 2024 (井村 一樹)
- 2024/01/24 ■ 九州・沖縄消化器外科学術研究会を開催されました！ (立野 勝正)
- 2024/01/18 ■ (学長報道) American College of Surgeons (ACS) 2024 (小林 伸一郎)

| 項目 | 実績値 | 総合評価 | |
|----------------|-------|------|------|
| | | 総合評価 | 評価基準 |
| 教育 | 2,804 | 8 | 8 |
| 研究 | 1,054 | 9 | 9 |
| 衛生保健 | 1,050 | 2 | 2 |
| 教科書 | 300 | 6 | 6 |
| その他の教育活動 | 0 | 23 | 23 |
| 研究 | 5,418 | 4 | 4 |
| SDGs実践実績 | 1,068 | 2 | 2 |
| 論文数 | 625 | 15 | 15 |
| 論文登録者数 | 1,065 | 3 | 3 |
| 著書 | 0 | 17 | 17 |
| 出版活動者 | 0 | 3 | 3 |
| 研究費獲得件数 | 300 | 27 | 27 |
| 特許出願・登録 | 300 | 3 | 3 |
| 受賞 | 0 | 17 | 17 |
| 講演・口頭発表等 | 340 | 9 | 9 |
| 国際化 | 998 | 7 | 7 |
| 英語授業 | 27 | 18 | 18 |
| 留学生指導 | 400 | 1 | 1 |
| 留学生支援(日本人学生) | 300 | 2 | 2 |
| 学生交流に関する支援体制 | 0 | 4 | 4 |
| 国際会議 | 71 | 6 | 6 |
| 国際学会での講演・口頭発表等 | 0 | 12 | 12 |
| 地域・社会貢献 | 2,180 | 6 | 6 |
| 社会貢献活動 | 2,000 | 1 | 1 |
| 新規研究開拓 | 100 | 5 | 5 |
| メディア報道 | 80 | 11 | 11 |
| 外部資金 | 6,382 | 9 | 9 |
| 国際化度 | 5,800 | 1 | 1 |
| 内部相互通 | 1,123 | 3 | 3 |
| 大学運営 | 61 | 51 | 51 |
| 全学教員会・学長GW | 0 | 31 | 31 |
| 管理職 | 0 | 10 | 10 |
| 内部運営 | 0 | 3 | 3 |
| 人材育成 | 61 | 29 | 29 |

3

4

7

6

5

51

活動状況結果実績データ

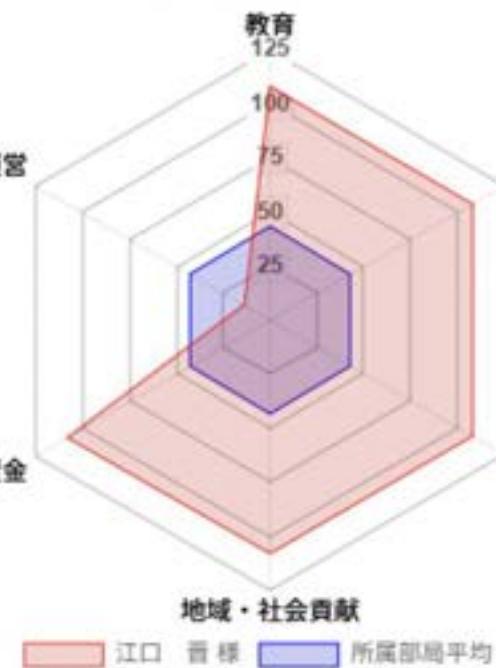
対象者：2024年5月1日および2025年5月1日に基幹大学に在籍する教員

対象者数

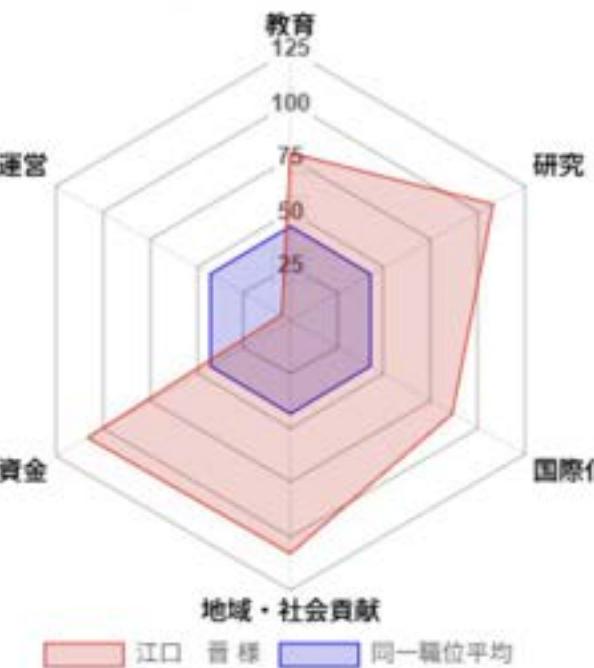
| | |
|------|-------|
| 所属部局 | 125人 |
| 同一職位 | 290人 |
| 全学 | 1046人 |

| | |
|------|----------|
| 氏名 | 江口 順 |
| 職員番号 | 83886526 |
| 所属部局 | 医学部医学科 |
| 職位 | 教授 |

所属部局平均との比較（所属部局平均を50として表示）



同一職位平均との比較（同一職位平均を50として表示）



外科学講座 統合・再編について

現在の外科学教室の枠組みの問題点

長所

- ・長い伝統の中でお互いに切磋琢磨して臨床・研究・教育で両講座とも成果を上げてきた。
- ・それぞれの関連病院と強固な連携関係ができている。
- ・入局者を確保できており、優秀な人材を輩出している。
- ・外科全般にわたる修練が可能である。

問題点

- ・診療科重複のため、学生や研修医（特に他学出身者）に特徴が分かりにくい。
- ・診療科重複のため、入局者が分散あるいは敬遠している可能性がある。
- ・診療科重複のため、医療安全上の問題あり（群馬大学の例）。
- ・診療科重複のため、症例が分散し高度医療、臨床研究を行う上で効率的でない。
- ・関連病院が限定されるため、地域病院への専門人材の派遣が困難な可能性がある。
- ・全国的には統合・再編によるマンパワー充実化の傾向にある。

2025年度 外科入局情報

- 2025年度より外科は**大講座**となりました。
 - 呼吸器・乳腺内分泌外科
 - 肝胆脾・小児外科
 - 心臓血管外科
 - 胃・食道外科
 - 大腸・肛門外科
- 3年目～5年目の医師は、1外・2外・心外などに**入局せず**、外科ハブセンターへの所属となります。

外科学講座第1回同門会 2025年3月15日

The Nagasaki Surgery Alumni Association



長崎大学 外科学講座ホームページ開設



一患者さんへ
FOR PATIENTS



呼吸器外科
呼吸器外科 ◎



心臓・血管外科
心臓・血管外科 ◎



乳腺・内分泌内科
乳腺・内分泌内科 ◎



小児外科
小児外科 ◎



肝胆膵・移植外科
肝胆膵・移植外科 ◎



腎・食道外科(上部)
腎・食道外科(上部) ◎



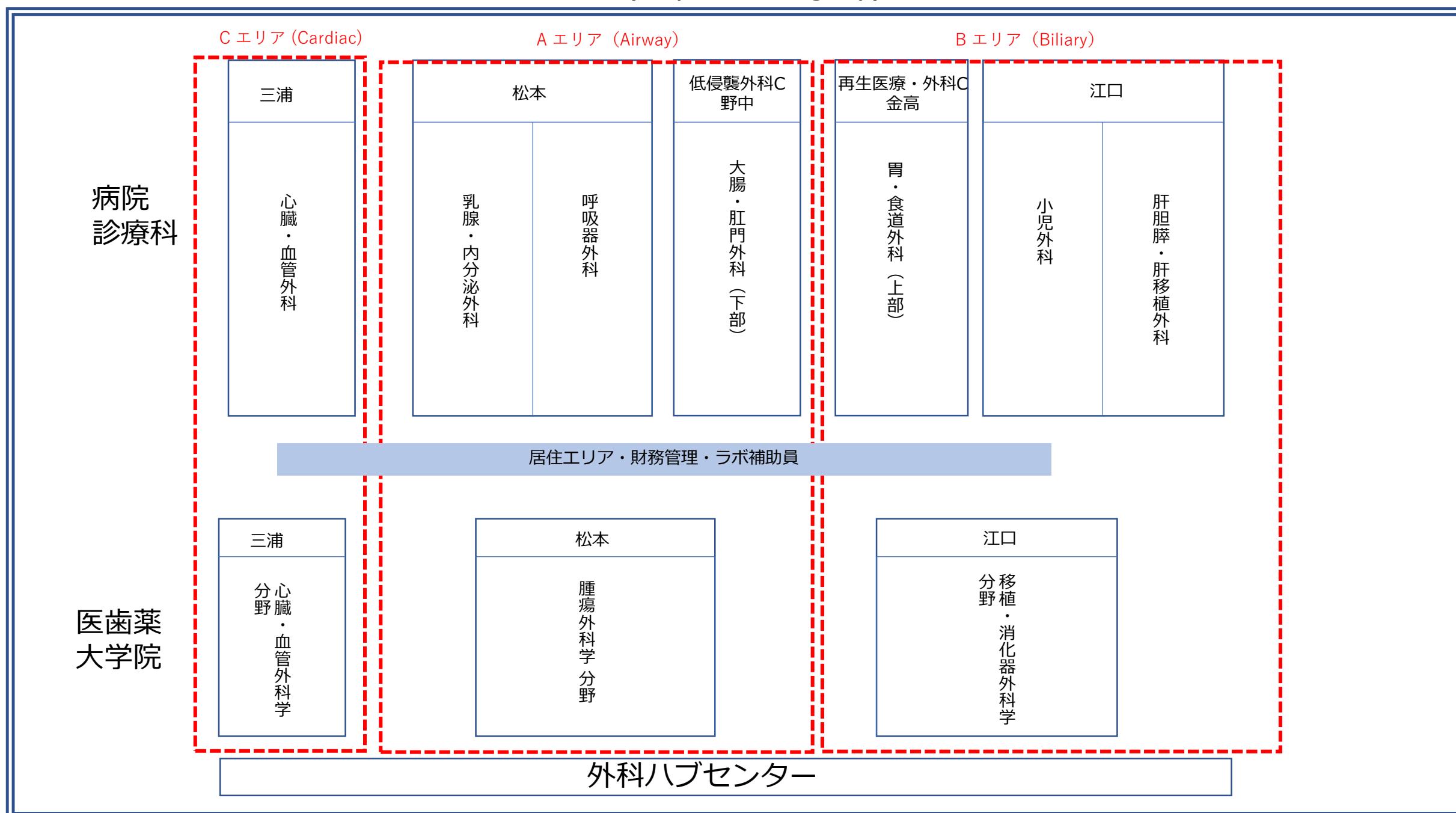
大腸・肛門外科(下部)
大腸・肛門外科(下部) ◎

来年度外科ハブセンター所属決定者

| | | | |
|----|-----|------------------|------------|
| 犬養 | 真衣 | (長崎医療センター) | 2025年11月現在 |
| 宮崎 | 玲依奈 | (北九州総合病院) | |
| 林田 | 紗和 | (練馬病院) | |
| 小嶋 | 雅之 | (佐世保市総合医療センター) | |
| 宮崎 | 天瑠花 | (佐世保市総合医療センター) | |
| 山口 | 拓也 | (長崎みなとメディカルセンター) | |

入局希望者の情報があれば、
いつでもご連絡ください。

外科学講座 (Dept. of Surgery)



2025年4月より

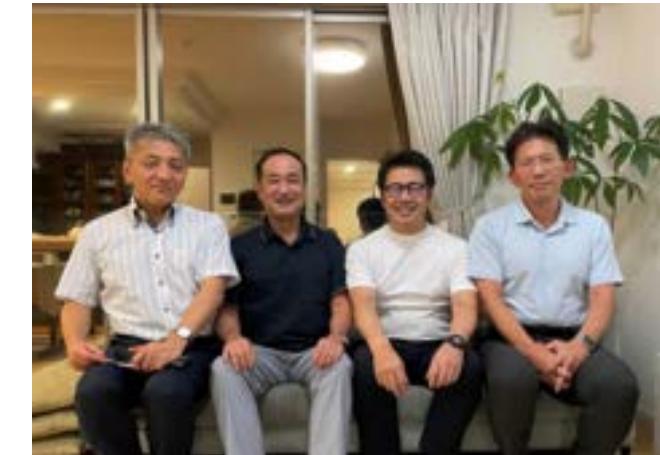
- 各診療科長の下で**臨床**カンファレンスを行っています。

- ✓ 呼吸器・乳腺内分泌外科
- ✓ 肝胆膵・小児外科
- ✓ 胃食道外科
- ✓ 大腸肛門外科
- ✓ 心臓血管外科

(現行の1外科・2外科の**臨床**カンファレンスは中止しました)



- 月1回、**外科学講座全員の連絡会議**、MMカンファ、**外科診療会長会議**を行っています。
- 今後、手術曜日・外来曜日は各診療科で調整していく。
- 胃・食道外科、大腸・肛門外科の教授室を作りました。
- 居住区は分野別に引越し開始しています。



外科学講座全員の定例連絡会議・MMカンファ

毎月第一火曜日AM8:30



外科学講座合同チームとして参加



6月12日
牟田杯バレーボール大会



7月29日
医局対抗野球大会



11月4日
宮崎杯バスケットボール大会
第3位

外科学講座 今後の予定

- 2024 12/15(月) 外科学講座忘年会(教室員＋ラボさん)
@スタジアムシティ
- 2025 2/22(日) 金高教授・野中教授 就任祝賀会(大学関係者のみ)
@ホテルニュー長崎
- 2025 3/14(金) 外科学講座同門会(NAGISAA:大学＋関連病院)
@ホテルニュー長崎(集談会後)



2040年を見据えたがん医療体制の均てん化・集約化に関する資料

2040年を見据えたがん医療提供体制の均てん化・集約化に関する参考資料

厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾患対策課
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

2040年を見据えたがん医療の均てん化・集約化に係る基本的な考え方について

- ・国は、がん対策基本法に基づき、拠点病院等を中心として、適切ながん医療を受けることができるよう、均てん化の促進に取組んでおり、都道府県は、医療計画を作成し、地域の医療需要を踏まえて、医療機関及び関係機関の機能の役割分担及び連携により、がん医療提供体制を確保してきたところ。
 - ・2040年に向けて、がん医療の需要変化等が見込まれる中、引き続き適切ながん医療を受けることができるよう均てん化の促進に取組むとともに、持続可能ながん医療提供体制となるよう再構築していく必要がある。医療技術の観点からは、広く普及された医療について均てん化に取り組むとともに、高度な医療技術については、症例数を集積して質の高いがん医療提供体制を維持できるよう一定の集約化を検討していくといった医療機関及び関係機関の機能の役割分担及び連携を一層推進する。また、医療需要の観点からは、医療需要が少ない地域や医療従事者等の不足している地域等においては、効率性の観点から一定の集約化を検討していく。
 - ・また、がん予防や支持療法・緩和ケア等については、出来る限り多くの診療所・病院で提供されるよう取り組んでいく。

| 想定される提供主体 | 均てん化・集約化の考え方 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立がん研究センター、 国立成育医療研究センター、 都道府県がん診療連携拠点病院、 大学病院本院、小児がん拠点病院 ・ 地域の実情によっては 地域がん診療連携拠点病院等 | <p>特に集約化の検討が必要な医療についての考え方 (医療技術の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がん医療に係る一連のプロセスである「診断、治療方針の決定」に高度な判断を要する場合や、「治療、支持療法・緩和ケア」において、新規性があり、一般的・標準的とは言えない治療法や、高度な医療技術が必要であり、拠点化して症例数の集積が必要な医療。 ・ 診断や治療に高額な医療機器や専用設備等の導入及び維持が必要であるため、効率性の観点から症例数の集積及び医療資源の集約化が望ましい医療。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ がん診療連携拠点病院等 ・ 地域の実情によってはそれ以外の医療機関 | <p>(医療需給の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 症例数が少ない場合や専門医等の医療従事者が不足している診療領域等、効率性の観点から集約化が望ましい医療。 <p>※緊急性の高い医療で搬送時間が重視される医療等、患者の医療機関へのアクセスを確保する観点も留意する必要がある。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者にとって身近な診療所・病院 (かかりつけ医を含む) | <p>更なる均てん化が望ましい医療についての考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がん予防や支持療法・緩和ケア等、出来る限り多くの診療所・病院で提供されること望ましい医療。 |

(3-1) 国単位で確保することが望ましい医療として、小児がん・希少がんの中でも特に高度な専門性を有する診療等が考えられる

49

治療に影響を及ぼす医療行為の内容的な面であり、すべての医療行為と同様に医療行為を実施しているものと見なすといふに當る。また、手術操作を含む各種手術について、がん以外にも、治療目的で手術の必要性についての手術をうながす必要があることから、がん医療連携体制の構築にあたりては、専門医連携協議会を設置するとともに、がん以外にも各種の治療目的で手術をうながす手術を実施する手術室を設置していくべきである。

おわりに

今後とも教室へのご支援宜しく
お願い申し上げます。

皆さんが楽しく外科医を続けられる
ように、考えていきたいと存じます。

診療応援・代診などのご要望は、
医局長までお知らせください。